
BIO HAZARD side

siziku

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

B I O H A Z A R D s i d e > B <

【Nコード】

N 0 5 4 6 K

【作者名】

s i z i k u

【あらすじ】

b i o h a z a r d の二次創作小説です。

へたれた男がブラッドに憑依……

ネメシス怖さにハッスル（古）；

死にたくなないと騒ぐうちに大活躍で……

所謂“憑依”物です。

11/9 一応完結

気が付けば

こういうのってわかるよ？

所謂“憑依”とか“トリップ”って言う奴でしょ、二次SSとかでよく見る。

現実世界で死んで、気付いたら〇〇の××でした。

ってな奴、事実自分が置かれた状況がそうだから。

二次創作とかのはよく見てました。

実際ありえんだなあ〜って、ぼんやり考えてた訳ですよ。そう思うのも束の間。

“何故にオレ、ブラッドなの!?”

クリス、レオン、主人公じゃないがバリーやオイシイ役持ったカルロスでも良い。

この際、女のジルやクレア、エイダでも構わない。

ハンクや豆腐でも……………いや、豆腐はお断りだ。

何故にオレ、ブラッドなの？

ホラーゲームの傑作、バイオハザード

ウイルスによって起こったバイオハザードから生存する。

小説化は勿論、映画化も果たした人気ゲーム。

シリーズはコンプリートしてないけど、少なくともブラッド“オレ

”の登場した分の作品は所持してるしクリアした。

どこに俺が歴史に介入する余地がある？

洋館事件（初代）はびびってクリス達（主人公）置き去りにへりで逃げ出して、

でも置いてきぼりにした事が怖くてへりで空中うろろうしてただろ。

いつそ俺もへりから降りて…………

落ち着け、それじゃ脱出どうする。

研究所にへりは無い、そもそもS・T・A・R・S・相手にBOW
がどこまで戦えるかのテストのために誘い込まれたんだっけ？

だったから証拠隠滅のためにも全滅でもなんでもさせるはずだ。

それにアンブレラの悪行を暴くためにデータもほしい。

洋館事件にはクリス達に体験して頂かなければ。

と、なるとブラッド（俺は）クリス達を助ける為に敵からへりを安
全な所に退避させて、三時間後前後に出迎える必要がある。

次にラクーン・シティ消滅事件（3）

序盤にチラツと登場した位

開始数分、CGムービーにも出たけど、約29秒間のムービー中に
ネメシス T型の触手に頭突き刺されてあの世行き……………

マテ、まてマテまて

まてマテまてマてまて……………

頭突き刺されて死んだ！？

ヤバいじゃん、死ぬじゃん！！

俺！！
どうスンの死ぬじゃん死にたく無いよ！？
痛いのがあよ！？

今何日！？

3当日（9/28）じゃあ助かりよう無いよ！？

落ち着け……こういう時は深呼吸をして……
吸ってー吸ってー吸ってー吸ってー

ポハツ！！

何やってるんだ、おれ……orz

吸ってばっかしじゃ倒れるのが当たり前、
まあしかし、咽せ込んだおかげでなんとか落ち着けたw

……よし、少しは落ち着けた。

ーおつ！！“今、何日！！”

何か無いかな？

ありました、隊長！！

新聞スタンドです！！

中には新聞が入っています！！

どれどれ？ 11/16……………！？
本編終わっとる……………？

訳ないか、頭切り替えて新聞に目を通す、英語が壊滅的にダメなハズの俺にもかかわらず何故か新聞を読むことができた。
肉体がブラッドだからか……………？

ナニナニ……………??

1986年？

本編開始12年も前かよ。

まあ、いい。

12年もあれば生還への布石が打てるってもんだ。

2あつ“俺自身の能力は！？”

今んところ未知数、とりあえず中身が小心者だから格闘戦は無理、
肉体年齢は23歳と社会人なので行動の範囲は広い。

まだ12年あるし（ ）v。

3いつ“他のメンバーは？”

今確認できるのは、

グラスアン（ウエスカー）

エンリコ

ケネス

ブラッド
俺

後は今ん所警察にすら入って居ない。

クリスやバリーは元空軍だから今ん所、
ラクーン・シティにいるかも怪しい。

S・T・A・R・S 設立が1996年

後10年か……

とりあえず助けたいけど、1の介入はほぼ無理、それに自分自身強
い訳では無いから、ある程度、先をカンニングしたただけだからな

まあ、精一杯生きますか。

努力次第？

あ、はい。

前にも言っていました自分のパラメーターですが……………

市警察に入って訓練受けました。

“残念！！”

壊滅的でした。orz

身体能力は“良い方”

「良い」訳では無いです。

しかもクリスやウエスカーなどの主人公、ライバルクラスではなく
“一般人と”比べて……………

ナイフコンバットハ……………、

聞かないでくれ…

銃の取り扱いに関しては良い。

ちなみに得意な射撃は早撃ち方面じゃなくて狙撃方面

じっくり狙うのが相性良い。

格闘戦 特にナイフコンバットに比べたらまだ伸びる余地がある。

まるつきり俺のプレイスタイルだな……

そう、裏の裏まで知り尽くしたバイオだが、あまり“ナイフ”を使
ったこと無いです

“ナイフクリア”なんで以ての外。

基本的に敵は無視か銃、バイオは基本的に射撃専攻。

4や5もナイフとか使わずにライフルとかで狙撃してたからかな

MGSも使うの狙撃銃ばっかだったし。

他のゲームも……

っと、話がズレた。

あと、的撃ちしてて気付いたんですが……

なんで弾無くなんないの………！？

それはバリーのおっさんに連れられてシューティング・レンジに行
った時なんだが。

ベレッタ92SF

(1 クリティカル出るヤツ)

的にズガズガぶっ放してたっけ

どうも15発以上撃てる。

数え間違えたかなと思ったけど、マガジン外してみたらフルロードされてました……

どうも俺、“全武器無限化アイテム”所持してるらしい。

結論

‘俺のプレイ内容が反映されている!!’

グッジョブ!!

くっじよぶ 俺!!

良くもまあ!!9999クレジット貯めて無限アイテム買った!!

∴多分四次元ボックス(アイテムBOX)

開ければM4とガトリング・ガンあとロケランも持ってるんだろな…

おっと、忘れてた∴今いるのは米軍基地です。

何故そんな所にいるか。

それはラクーン市警からの、所謂

“出向”と言う奴です。

署長が

「誰か出向に出る者はいないか？」

とオフィスで

んじゃあとその話を受けた。

(死にたくないし、鍛えられるしねw)

と、軽い気持ちで、ところがドッコイ!!

キツイ、キツイぞ?

!!!!!!き!!つ!!す!!ぎ!!る!!!!!!

ああ〜なんか聞いたこと有るかも、

“ 実際の訓練では年に数名が死亡する”
とか何とか。

今更遅いと後悔しながら目下、医務室で生死の境を放浪中〜

「死んでたまるか」

本編始まる前に死んでたまるかあ!!

ガッツで無理矢理回復しますよ。

何故ガッツで回復するだけの余裕が有るのにそこまで必死になって
怪我を治したかと言うと……

“ 病院がアンブレラ系列”

下手に死にかけたら最後、ハンターかタイラントにでもされちま
う。

それだけは勘弁!!

鬼の回復力で半年の入院を四ヶ月に縮めて見せました、ええ、病院の先生もビビってましたよ。

と言う訳で出向も無事? 終了

ラクーンシティに帰る日が来ました!!

本当の故郷でも無いに懐かしく涙が溢れてくる。

思い出す……………

ミツチリ鍛えられた指揮官、あの喜悦に満ちた顔……………

サドだ、絶対サドだ……………

ひいゝ

ガクガクブルブル
ガクブルガクブル

はっ!!

危なく精神からあの世に行く所だった…。

今はラクーンシティ目指しハイウェイにジープをかつ飛ばしとりま
す。

2 レオン編と同じ景色を眺めながらラクーンシティにとちやく
(死都には成ってないけど)

短かったけど長かった、短い研修を終えて、

“ ラクーンシティよ！

私は還って来たあ！” (W)

成果……？

さて、出向の成果ですが……

S・T・A・R・S が設立されちゃいました！

(bへー。)

あの出向はS・T・A・R・S 設立に先立つての人材養成でしたか。

官民間わず優秀な人間を集める、と言うことで米軍で出向を受け、史実と違い。

“臆病者”とは微妙に違う俺も無事選定されました。

ポジションはオムニマンで大型火器の担当

原作だと化学防護要員でリア・セキュリティだったケド、米軍出向でズレが出たな。

まあ、前回でガンマニアだったから知識も、訓練受けたから経験も人一倍あるけど。

あとやれることは……

せいぜいレベルカが入隊した時に、クリスの足引っ張らないよう稽古付けとくだけだ。出来ればVSハンターのイベント起きても生き延びれば良いケド……

正直、ジル編なのかクリス編なのか解らないのが怖い、バリーには

……

旅行のチケットでもプレゼントして置くか？

事件当日が出発日になるように。

前日からBチームが行方不明になるから。バリーは召集されるだろうし、家族は旅行中にしてれば脅しはできないだろうし。

“こちら”に来てから日課になった射撃訓練。

今日もシューティングレンジに詰めております。

抜く銃はFN ブローニングHP

本来“2”の女性キャラの使う拳銃であるが、俺の持つこれは一味違う。

第一にフロントサイトを削り取って、早撃ち時にホルスターに引っ掛からないようにしてある。

グリップのカバーは変形しない金属製。

手に合わせて削り、がっちりと掴めるように調節、スライドも最上級の物の中からさらに厳選し、強装弾に対応させた強化スライド、トリガーも連射に備えて軽い物に換装し、全体的にも軽量化を施しつつも強度を失わないように要所要所で補強も行われている。

まさにブローニング・カスタム

いや、スーパー・ブローニングか？

基地で仲良くなったマニアに紹介された、ガンスミス…、良いセンスだ。

でもこの一丁にどれだけつき込んだか。

(TOT)

握りなれた、しっかりと来る銃の感触を確かめつつ、的を見据える。まるで体の一部になったかのような、銃の隅から隅まで、理解できる。

中で部品がどう動くか、バレルを飛び出す弾丸がどう翔ぶか、頭の中でイメージ出来る。

そしてどこに弾丸がたどり着くかイメージを終えると引き金を引き絞った……

ひゅっ！

イメージ通りに飛翔した弾丸は、板に塗りつぶされた人型の“ど真ん中”を撃ち抜いていた。

「どつつはああああ〜」

つつ疲れたあ〜」

この“狙撃”集中力一気に使い果たすんだよね…

命中率は“ほぼ100%”だけど、時間がかかりすぎ、意味ないじゃないw

まあ、その時間を縮めて一瞬で狙いつけられるように特訓してるんですけど。(´ー´)

でもやればやるほど狙いが正確になる感じ、照準が早くなる感覚。

……正直、堪んないw

さて、精密射撃の次は速度だ、
ブローニングをホルスターに突っ込むと、
もう一丁、別な銃を取り出す。
ベレッタ92SF

S・T・A・R・Sの制式拳銃だ、こっちは何の弄りは入れてない。
普通の拳銃。

3……2……1……！！

人の形に切り抜かれたのが次々に縦の“線”から90°回転し“面”になる。次にどこが動くかを見張りつつ左手に持ったベレッタで的を撃ち抜く……

……左……中央……右……また右……！！

バスバスと銃の弾丸を吐き出す音が連続して響き、的に当たる。

残り………4、いや3

2つ同時に跳ね上がる的、中央と右だ。
中央を撃つと同時に照準をすぐさま右手に向け、撃つ！！

最後の1つも中央的が全て終わる。

的が全てオープンになる。全体的には当たっている、当たっているのだが……
だめだめだな

“前回”利き手だった左手の方がやりやすいのだが、どうしても精度が……

右手は当たるけど使う分に違和感がある。

左手でも狙撃なら当たる自信あるんだけどナ (< | >)
とりあえずメニュー終了。

シューティングレンジの片付けをする。

ちなみにこの後はクリスと一杯引っ掛ける約束をしている。

いんたーみっしょん？

結局、クリスにバリーが付いてきてリチャードやフォレスト、エンリコ エドワード と……………結局 S・T・A・R・S のメンバー大半がバーに集まってしまったなら、とウエスカーやジルも、と言う話になったが結局ウエスカーは来なかった。

しかしジル、以外と行けるクチなのね……

そのビール何杯目よあーた。

フォレスト、あんたも見た目通りビール
(ジョッキ)ですか。

「自分から誘っておいて、イヤに静かだな、ブラッド」

横に座っているクリスがタバコを取り出し、ライターで火を点ける。

「まあな、騒がしいのは好きだが……
自分で騒ぐのはあんまりガラじゃない。」目の前のショットグラスに入った酒をちびちびすすりながら答える。

「ふん」

さほど興味が無さそうな、生返事が帰ってくる。

なら聞くなよ……。

「そついやブラッド、お前サムライ・エッジはどうした？ 普段使ってるのサムライ・エッジじゃないだろ？」

なかなか鋭いな、さすがは主人公

さて、サムライ・エッジですか……

S・T・A・R・Sの制式拳銃、昔はただのベレッタだったのに、今は公式でも最初からサムライ・エッジなのね……

「前々から使っていた銃だし、単に愛着があるだけさ。」
まあ確かにこつち来てからずっと使っていた銃だし。

「だけど制式装備だろ？」

「それを言ったらバリーの
44マグナムとかの事は言えないだろ？」

「それもそうか。」

「それに、“こいつ”は弄りを入れてるからな、使わないのは惜しい。」

ポンポンとホルスターを叩く

「ほう、どんなのだ」

バリー、あんだ銃の改造と聞いて食指が動きましたか。

ホルスターから取り出すとマガジンを引き抜きバリーに手渡す。

「フロントサイトを削って……スライドが……なる程、握り難いがそいつは本人の手に合わせているからか。」

ぶつぶつと呟きながら手の中でブローニングを弄んでいる。

「いや、良い銃を見た。

大した物だな、ブラッド。」

一通りみて満足したのかそう言うとブローニングを返すバリー。

「なに、出向した時、知り合った奴に腕の良いガンスミスを紹介して貰っただけださ。」

ホルスターにブローニングを収めながら答える。

「腕の良いガンスミスねえ……」

興味深そうに耳を傾けるバリー

「バリーも、今のサムライ・エッジに満足出来ないならケンドの所で弄り入れたらどうだ？」

「そうだな……45ACPとか10mmオートなんか使えれば良いんじゃない……」

「なる程な、今度ケンドに聞いて置こう。」

「即答……!？」

マジ改造するんか？

この、

S・T・A・R・Sの宴会はバリーが帰るまで続いた、
相変わらずの愛妻家なんだなバリーよ

閑話休題

あれから少し、経ちました、

俺もS・T・A・R・S・として幾つか事件を解決しました。

その内、何度かの事件でレミントンM700で相手が持ってた拳銃を狙撃しました。

やはり自分はスナイパー向きだ。

ヘリパイロットとしても活躍しました。

基本的にPMのクリスがヘリパイロットですが、ヘリを上空で待機ポイントマンさたりする場合、俺が変わりに運転します。

ジョセフが入隊しました、彼はオムニマンの適性があるので俺のポジションがリア・セキュリティに移りました。

シックススマン・セル（6人1組）ですからこれで11人

あとはレベッカを待つのみです。

お茶を一杯
ずずーっ

今度の事件は不運でした、ビルに立て籠もる薬の売人です。

暴発した弾丸が、持っていた銃のスライドで跳弾し、耳元をかすり
ました。

擦過した衝撃で脳震盪を起こしてビルの非常階段から転げ落ちまし
た。

大した事は無かったのですが、頭と言うことで大事を取ってMRI
を撮り、入院しています。

階段から落ちるとはとても不運です。

しかし、

原因の跳弾は、スライドに当たらなかつたら弾丸が頭をカチ割って
いました。

幸運ですね。

でも、そもそもが暴発です、ツいているのか居ないのか、正直微妙
ですね。

シャリシャリ、シャリシャリ

………リンゴうめえ………

グラサンはともかく、S・T・A・R・Sのメンバーはいろいろ
とお見舞いに来ます。

クリスやジル、リチャード、エンリコならともかく、フォレスト、
ケネスも来るなんてどういう事でしょうか？

ラクーン・タイムズ………トップの記事は>ラクーン・シャークス
19 15で勝利か

S・T・A・R・Sの皆さんはみんな優しいですね。

オヤ？

珍しい、グラサンが来ましたよ？

「どうしたブラッド、私がここに来るのがそんなに珍しいか？」

(。。。) バレてる！？

「顔に出てるぞ。」

マジすか……

「検査入院とは言っても早くに戻って欲しいな、貴様ひとりがいなだけで書類処理の速度が半端無く遅い。」

書類処理ですか……

そう言えば俺、自分から率先仕事してたからな

バリーが以前、

家族サービスするからって早く帰りたい、て言ってた時に仕事代わった事あるな。

クリスなんて基本的に丸投げだ。

他にも色々……

……心当たりが多すぎる。

「自分でコーヒー淹れるのも面倒だから。」
「コーヒーですか……」

「わざわざそんな事言うために来たんでは無いでしょう？」

その鞆の中身を出してください、見舞いの品では無いのはわかっています。」

無言のまま、鞆をデスクに置くグラサン。

中身は大量の書類だ。

「明日には戻りますので、その時に上げます。」

「すまない、こちらもちちらで立て込んでいるんだ。」

そう告げるとウェスカーは病室から出て行った。

さて、事務も仕事の内だ。

ちやっちやと片付けますか!!

プロフィール(前書き)

憑依者により確変したブラッド

説明書のプロフィールも以下のように変化しました。

プロフィール

ブラッド・ビッカーズ

「銃器、火器の取り扱いのプロ」との触れ込みで入隊した元R・P・D・機動隊警察官。

物事に対し常に慎重姿勢で、自らを“臆病者”と称する。

米軍出向の経験を持ち、ヘリや航空機、船舶などの操縦はその時覚えたようだ。

ポジションはリア・セキュリティで、主に狙撃を担当

ガンマニアで銃器に関しては深い拘りが有る一言家のようだ。

書類処理からお茶汲みなど、気配りが良く周囲からの信頼は厚い。

(事務仕事の苦手なクリスなどは全幅の信頼を置いている。)

彼が居ないだけでS・T・A・R・Sの事務の効率が70%低下する(らしい)。

Mr. luckyと言う渾名を持つ。

(閑話休題参照)

車両運転と車両整備、と言う間柄

フォレスト

ガンマニア仲間のバリーや

武器整備担当のジョセフ

と仲が良いようだ。

洋館事件 前日

さて、間も無く6月がやってきますよ。

レベッカでしたが入隊は5月半ばでしたか。

ゾンビ相手に戦えない事は無い位には鍛えましたが……

ブローニングはおシャカ。

(閑話休題参照)

スライド、銃身共にオジャン。

(ノ T)

悲しい事ですが今はノーマルのブローニングを使ってますよ。

サムライ・エッジはケンド鉄砲店で弄りを入れて貰ってます。

さて、以前から計画していた、

バリー・ファミリー旅行計画を実行に移しますか……

まあ、バリーとは良い関係を気付いていましたし。

家族ぐるみの付き合い、って奴ですよ。

って事でサンフランシスコ行きの手配をしました。ケーブ
ルカーでも見て来なよ。

俺等は地獄見て来るから。(W)

そしてBチームの失踪、いよいよ明日ですよ。

そして今夜は夜勤です。

押収物保管庫から役に立ちそうな物でも物色しときますか。

いんたぐみっしょん・？（つぎ）

こちらブラッド。

ラクーン市警の押収物保管庫に潜入した……

しかし、すごいな此処は……

バリーが持ち出したロケットランチャーだけではなく

C 4（2の奴ね）

M 1 6 - A 2

M 3

M 8 7 0

M P - 5 K A 4

P S G - 1

A K - 4 7

各種弾薬……

…

…

…

.....

.....

.....

ラクーン市警は戦争でもする気が.....？

まあ、良いか（^ー^；）。

こっそりとPSG-1とMP5Kを頂戴しますよ。

S・T・A・R・S・Aチームのへりに積み込んで.....と、
夜で人目が少ないしね。

（笑）

バリーにも待機命令が届き不満気だ、せつかくの家族旅行に行けな
いだからか？

まあ謀ったから当然か.....

早番のジョセフには任せてケンド鉄砲店にサムライエッジブラッ
ド・モデルを取りに行く。

本来R・P・D・に待機.....

なんだけどすぐ戻るし、行き先はジョセフに教えてるから何か有っ

ても大事でしょ。

バイオハザード2のマップを頭に思い浮かべながらケンド鉄砲を指す。

物置を抜けて裏口へ、2だとタンクローリーが突っ込んだ通りを通りw

ケンド鉄砲店へと足を運ぶ、木製のドアを二丁三叩くと中から返答が有った。

「こんな早くに何の用だ？」

「俺だ、ブラッドだよ、頼んでいた銃を取りに来た。」

「ああそうかい、たつく　こんな早くに迷惑だ、常識ってモンを考えろ」

そう言いながらケンド鉄砲店の主、ロバート・ケンドは店の扉を開けた。

「いや、そうも言っ居られない状況でね、うち（S・T・A・R・S・）のブラボォー・チームが消息を絶ったのは知ってるだろう？」

「いや、初耳だ、徹夜明けで一寝しようとしたところだ。」

会話しながらも、手でこちらを店内に招き入れる。

鉄と油、そして火薬の匂いが嗅覚をくすぐる。

「すまない、でも事実だ。」

前から森林地帯で行方不明者や惨殺死体が出て来る事件が有っただろう？

ブラボオー・チームはそいつを調べに森林地帯に行った……、そして消息を絶った。」

「なるほど、今度はブラボオー・チームの捜索にアルファ・チームが出る訳だ。」

「ああ、少なくともブラボオー・チームの連中が連絡が取れない状況下にある程、だ。」

「一筋縄じゃいかないだろうからな、このままじゃ（未改造の銃）、不安だね。」

「わかった。」

「今出来る限りは最高の状態だ、持って行け」

カウンターの下からアタッシュ・ケースを取り出し、放って来る。

「ケースの中身はマガジンの外したベレッタ“サムライエッジ・ブラッドモデル”」

マガジンにホルスター、と一通りの装備が入っていた。

「ホルスターはサーブイスだ、へりの操縦するお前さんじゃあ、レックホルスターじゃ抜きにくいだろ？」

「ショルダーホルスターにサムライエッジを収めると二回、早撃ちの要領でホルスターから取り出し見る。」

「……うん、良い感じだ。」

「細かい調節はまだだが……」

「問題ないよ。」

何かあったら、それ追い頼む事にする。」

「代金の方は何時も通りに。」

「……………っと。幸運を祈る！！」

後ろからのケンドの声に

かるーい敬礼で返すと R・P・D に歩いていった。

洋館事件 ぱくと1

雲は低く、陰鬱な心境を映しているようだ。

「見つかりませんね」

左のシートに座るジョセフがヘリの運転をするクリスに言う。

確かに、先程からヘリから見える光景は不気味に広がる広大な森ばかりだ。

「クリス!!! アレを見て!!!」

気付いたのはジルだ。

かすかに、灰色がかった黒い煙がたなびいて居る。

「傍に寄せろ、クリス」

隊長であるウエスカーが即座に指示を出す。

徐々にだが煙に近付き、煙の発生源である“ナニカ”が次第に見えてくる。

「.....!!!」

正面に座るジルが息を呑むのがわかる。

それも当然だ、そのヘリはS・T・A・R・S・ブラヴオーチームの乗っていたヘリだから。

原作通り、一端メンバーを降ろした後、ヘリを上空に待避させて様子を見るようだ。待機するのは後方の俺。

こう言う視界の聞かない場所では接近戦になる場合が多く、後方支援は邪魔になるからだ。

「すまん……………ジョセフ……………っ!!」

ジョセフの持っていた無線機を通して聞こえた、

犬の吠える声……………ショットガンの銃声

そしてジルの叫ぶ声、そう、バイオハザードのオープニングムービーの再現である。

知って居るからこそ、怖くなる。

“救えない”とイウコト……………

へりにいる以上、何の手出しをすることは出来ない。

突如通信が声を拾う。

ウエスカーだ……………!!

「聞こえるか…緊急事態だ……………へりを至急待避させる……………へりを待避させる!」

やっぱりクリス達を洋館に連れて行く気ですか。

さらに言えば流石に原作ブラッドとは言え味方を置いてけぼりにするか？

と思っただけど、隊長命令だったのな。

「了解、一端離れて指示を待ちます。」
なるべく動揺が声に出ないように、ウエスカーに返答すると、ヘリの操縦桿を引いて離脱させた。

「……おお……っ……い……お……」

ヘリのローター音に混じって聞こえるか声はクリスの物だ。

原作通り下で叫んでいる。

………？

何か、違和感を感じる。

しかし、その違和感を確かめる間も無くクリス達が走り出した、暗闇の中、マズルラッシュが点々と光り、追跡を楽しむ。

そして、見えたのは………

“洋館”………！！

しばらく思巡した後、帰還時に

“燃料がギリギリ”

だった事を思い出し、へりを研究所のへりポートに着陸させた。

洋館事件 ぱくと2

へりから降りると、ファストロープ用のワイヤーを使い、停止したエレベーター・シャフトを降りて行く。

軍に研修受けてて良かった、昔の“俺”じゃあ、まず降りられんたろ。

カーゴの上に降りると、天井に立つとハッチを開け、脇に予め用意されていた縄梯子を下ろしカーゴ内に降りる。

エレベーターは電源が落ちているものの、ドア自体は手動だ、ゲームでも見た、細長い通路を抜ける、ゲートのロックは掛かっていたが内側からなら簡単に開いた。

「さーって、ぼちぼち始めますか……」

研究施設はスルー、まずは洋館を目指して歩き出した。

エレベーターを動かすと噴水の真下に着いた、噴水自体は開いていないので真つ暗だが、オイルライターに火を灯すと、眩しさに目が眩むが、それも一瞬で、次第に馴れるとむしろ薄暗い。

中から噴水を開く“何か”が有る筈だ、ライターの薄暗い灯りの中では視界はあまりきかない。

エレベーター正面の石壁を押すと狭い通路が開いた、肩幅ギリギリ、少し体を斜めにしないと歩くのは大変だ。

狭く、細い通路の突き当たり。

そこは回転扉になっており、出た先はクランク通路だった。

こっちにはエンリコが居るから………

梯子を上ると中庭に出た。

クリス達が貯水池開けてないから滝は無い。

ワン公にはブローニングで弾幕を張りつつ左手に持ったサムライ・エッジを頭に撃ち込んだ。

エレベーターが上がって居るから出られない。

とりあえず野外は危険だ、寄宿舍へと足を運んだ。

洋館事件 ぱくと2 (後書き)

ネタ

パラメーター

HP:170 (クリス200)

感染速度:

S・T・A・R・S なので0

パーソナルアイテム

ブラッド専用サムライエッジ

ダメージは少ないが連射性が高く、マガジン交換の時の隙も少ない。

スペシャルアクション

狙い撃ち(全ての銃)

“7秒以上”構えるとクリティカル・ヒットが“必ず出る”。(7秒も構えてられるか!!)

タクティカル・リロード

“装弾数が0の時”

構え+xで“通常の二倍速度”でリロードを行う。

エクストラ アイテム

Mr.lucky

(luckyと刻まれた、傷の着いたブローニングのスライド、所持している間1/2でダメージ無効化。)

アイテムキャパ

10個

隠しパラメーター

調達：アイテム入手数1.5倍

例

(一度に6発入手するマグナム弾を拾うと6x1.5となり9発入手出来る。)

また、格闘戦が不得手の為か、ナイフの攻撃がジルの1/2しかない。

洋館事件 ぱくと3

たつく……!!何なんだこの化け物屋敷は!!!

化け物だらけで、ケネスが殺られてやがった、フォレストなんて化け物になって襲って来た。

ウエスカーやジルは行方不明になった。

バリーの無事は正直心強い。

が、しかし少々様子がおかしい、まあこの状況に晒されて疲れて居るのだろう。

そしていま、クリスが屋根裏で対峙しているのがコイツだ……

信じられないほどでかい、蛇の化け物だ。

「何なんだよコイツは!!」

化け物に向かって館の中で見つけたショットガンを構えると引き金を引き絞った!!

しかし、相手のバケモンは差して気にする様子は見せず、向かって来る。名前の由来でもある、大口を広げてクリスを飲み込まんと、ギザギザと凶暴そうな歯の生えた口が迫る。

慌て体を捻って避けるが脚に相手の牙を引っかける形で食い込んだ。激痛が襲い、熱がこみ上げて来る……!!

「コイツ!!」

そのままの姿勢で、ショットガンの銃口を押し付けんばかりに近づ

けると、連射。

至近距離で放たれる散弾は表面のぬめった皮膚を食い破り肉にめり込み、化け物は悲鳴を上げて倒れる。

「はぁ……………」

大きく息を吐き出すと、立ち上がる、よろめいたのは脚の傷だけでは無いように思える。

化け物が出てきた穴のそばに何かが光った、

「……………?」

それを手に取った時、倒したと思った“奴”が起き上がった!!

完璧に油断していたクリスは倒れ込み、身動きが取れない!!

「クリス…!!」飛び込んできたのはブラヴオーチームのリチャードだ。

彼は重傷を負っていると言うのに、クリスの危機に助けに来たのだ。

手にしたグレネード・ランチャーから次々に撃ち出される硫酸弾は奴の表皮を溶かし、中の肉を焼いてよく。

痛みに悶くように暴れるた奴の尾が、まるで鞭のようになり、リチャードに“触れる”

圧倒的な質量と速度で振り下ろされた尾はリチャードを壁まで吹き飛ばし、首を折って絶命させた。

「リチャード！！」思わず叫ぶが、もはや彼には聞こえていない、目標をクリスに切り換えたのか、“ヨーン”はクリスを正面に捉えた。

先程までリチャードが使っていたグレネード・ランチャーを視界に見据えると、

その大口に飲み込まんと振り下ろされた鎌首を避け、
“跳んだ”
床を転がり、グレネード・ランチャーを手に取ると、ありったけのグレネードを撃ち込む。

それが効いたのか、奴は尻尾巻いて逃げていった。

洋館事件 ぱくと4

その後、情けない事だが俺は意識を失い、レベッカに助けて貰う羽目になっちまった。

牙が少々引つ掛けただけのつもり立っただが……

屋根裏部屋を出た途端、猛烈な目眩にと共に倒れ込んでしまったらしい。

レベッカが言うにはアルファ・チームの男だったらしいが……

いまいち覚えていないと言う。

バリーと合流し、二人で集めたクレストを裏口のプレートにはめ込むと。

“カチツ”と小さな音と共にロックが外れた。

出た先は中庭のようだ、無惨にも踏み荒らされた花壇と、犬の化け物がいた。

まだこちらには気付いていない。

向かう先は正面の門……！！

タイミングを見計らい、脱兎の如く駆けだした。

犬が此方に気付くがもう遅い！！

乱暴に門をくぐり抜けると鉄門を閉める、後の事を考え、門は架けない。

鳴り響く音は犬の化け物が門扉に体当たりを繰り返しているからだ。

しばらく続く音も暫くして止んだ。

クリスが入り込んだのは大型の貯水池らしい。

向こう岸に渡るルートはなく、貯水池自体結構深い。

別に泳いでも構わないが装備が水に浸かるし、暖を取る場所もない。

どうした物かと悩んでいると、水門が目に入った。

クランクか何かのハンドルをはめて使うタイプの水門である、赤錆ではいるが、未だ現役のようだ。

ハンドルをはめる四角い窪みを眺め、確か裏口の納屋で四角いクランクを見た筈だと思い出すと先程くぐり抜けたばかりの鉄扉を開いた。

洋館事件 ぱくと5 (前書き)

もう少しでブラッドは復帰する予定。
少しの間クリス視点です。

洋館事件 ぱくと5

納屋にあったクランクで水門を開くと、あっという間に水位が下がり、向こう岸へのルートが姿を表した。

……… 水はあちらに流れ出るみたいだな。

関係無い事がふと頭に浮かぶが、頭を振って追い出す。木の上から（屋根裏で対峙した化け物蛇程ではないが）大きな蛇が降ってきたがかまわず一気に走り抜ける。

エレベーター…と云うかりフトのスイッチを押し込むと低い稼働音と共に降りていった。

降りた先は、石造りの庭園で、

先程の貯水池から流れ落ちる水が滝を作っていた。

犬どもが何体が倒れていた。

ホルスターからハンドガンを取り出すとゆっくりと近づいて行く…

………

どうやら杞憂だったようだ、倒れていた犬どもは躯体に小さな穴が開いており、銃により撃ち倒されていたからだ。

ハンドガンホルスターに戻すと、胸の鞘に収められたナイフを取り出す。

銃剣にナイフを押し広げると中から出て来たのは先端の潰れた9mmパラベラム…恐らくはハンドガンの弾だ、死体の状況からここ

20分から30分前にやられたのだろう。

他にも3体ほど犬の死骸が転がっている。

「…撃った奴はかなりの腕だな……確実に仕留めてる………」

犬はいずれも数発で仕留められており、殆どが脳天に一撃だ。

一瞬、へりを操縦していた同僚の姿が頭を浮かんだが、それは有り得ない。

突如鳴り響いた銃声にナイフもそのまま、ハンドガンを引き抜くと銃声の鳴った先、“寄宿舎”へと歩を進めた……

洋館事件 ぱくと6

寄宿舎の中は驚くほどすんなりと歩く事が出来た。

すでに物言わぬ骸と化したゾンビ、蜘蛛を尻目に探索を開始する。

002号室から梯子で地下に降りると木箱の橋を渡り半ば水没した地下室へ、大きな水槽が有ったのか、割られたガラスから大量の水が溢れ出している。

ともかく水を止めなければ……

水を止めるための策を考えていると、嫌な癩が背を走った。

見れば巨大なサメがゆっくりとこちらに泳ぎよって来ている。

慌てて近くのドアを潜ると、どうやら会議室のような長机と椅子の並ぶ部屋だった。

巨大な樹の根が天井から突き出している。

しかしどうすることも出来ず、サメが居ないことを確認すると部屋から抜け出した。

サメが近づいてくる前に、と部屋を探すが、武器庫と書いた扉は鍵穴も無く、扉は開かなかつた、何か仕掛けがあるのだろうか。

隣の部屋は持っていた鍵で簡単に開いた。

その部屋には探していた水槽の制御があり、水槽への給水装置の電源を切ると徐々にではあるが水位が下がってきた。

他にも隣の武器庫の扉を開けるスイッチもあり、開錠した。

中には鍵と銃の弾があつたが大半が長い間水に浸かっていた所為か、

使い物にならなくなった物が多かった。

ハンドガンのマガジンを2つとショットガンの弾を14発ほど見つけると地下から寄宿舎へと戻った。

しかし、大半の化け物が倒されていた為、油断をし過ぎて居たのだろう。

廊下の角を曲がろうとした時、ゾンビが襲い掛かって来た。

“フイ”を突かれ、対応が出来ずに押し倒される。

身動きが取れない、噛みつかれまいと必死に頭を掴み抑える。

その時、飛来した弾丸がゾンビの頸を貫き、絶命させた。

廊下の突き当たりからゾンビを狙撃したのは……………

「クリス!!!」

あるうことがブラッドだった。

洋館事件 ぱくと7

「……クリス!!」

うおっつ () ; クリス速ええ

もう寄宿舍か、見つかったな。

とっさに撃ちまったけどどうしよう。

「ブラッド、お前どうしてここに居るんだ」

そりゃとうぜん、ヘリを操縦しているはずが、寄宿舍の中にいるんですから。

イリユージョン!! ってか! ?

「この先の施設にヘリポートがあったからな、降りてきたんだ。」

とりあえず、差し障りの無いセリフで誤魔化す。

「……そうか……なら質問を変える。

「なぜ、俺達を置いて離脱した?」

さすがに怪しまれますか?

小心者ではない“この”ブラッドは、

「仲間を置いて離脱する」

なんて事は決してしない。

ここからは俺の演技力の見せ所だ……

「……？……隊長の指示だったんだが？」

なるべく不思議がるように……
指示の方は事実そうだったしな。

「……！？どう言う事だ……？？」

おっ！！クリスも悩んでる悩んでる。
とりあえずは……

「クリス……？ちょっといいか？」

「なんだ？」

顎に当てていた手を離しこちらの話しを聞く姿勢になる。

「ジルやバリー、ジョセフは？」

面倒だけど今のブラッドが知るはずの無い情報だからな……

「ジルとウエスカーは行方不明だ、バリーは居るが様子がおかしい、
ジョセフは無事だ。」

「えっ……！」

クリスの告げた内容に俺は驚いた、何故なら本来死亡したはずのジ
ョセフが生きているのだから。

「ブラッド？」

「いや……、何でもない……」

「ああ……あとブラヴォーチームの連中もここに居るはずだ、レベルツ力を見つけた。」

「……ケネスとフォレスト、リチャードが死んだよ……」

「……そうか……いい奴だったんだがな」

「ああ……」

「よし、クリス。」

これからの行動の確認だ、他の奴らと合流したあと、ジルやウエスカー、エンリコを搜索して脱出。
いいな？」

「わかった、……ブラッド!!」

「!!」

クリスが叫ぶと銃口を俺の方に向けて撃ってきた。

しかしその銃弾は俺のそばを通り抜け背後に近づいていたワプスを撃ち落としていた。

「さ……さすが射撃コンテストチャンピオン……」

どうやらクリスが後ろからくるワプスに気付いてぶっ放したらしい。

「これで貸しは無しだ」

先ほどの意趣返しのももりらしく、
ニヤリと笑うクリス

「だめだ、お前にや事務処理で貸しがたんまりとある」

「ああ」

「とりあえずクリスは他のメンバーに合流してくれ、俺は装備を取ってくる。」

「わかった、多分洋館にいるはずだ。」
そう言うところクリスは踵して歩きだした。

「……………。クリス」
寄宿舎から出ようとするクリスを呼び止めるとサイドパックから“それ”を放り投げた。

「弾が無くなったら言ってくれ、後から来た分、お前と違って装備に余裕があるからな。」

S & W M 6 2 9 C

3でマグナムとして出て来る強力なりボルバーだ。

都合スピードローダーで4つ(6×4)

ほど弾丸も調達したからまず生き延びれるだろう。

俺？俺はデザートイーグルがあるから大丈夫。

ハンドガンもナイフであらかじめ先端を潰した自家製ダムダム弾だし。

押収物保管庫からSMGとスナイパーライフル調達した。
サブマシンガン

全武器アイテムあるからどれも弾数無限。

「いいのか？」

「ああ、俺にはコイツがあるからな。」
ホルスターに入ったデザートイーグルをポンポンと叩くと納得した
顔で去っていった。

さて……………ちよっち時間潰したあと洋館に向かいますか……………。

洋館事件 ぱくと8

クリスさん……………!!

プラント42位倒しなさいよ!!

なんとなく103号室から大広間にいったんですよ。

そしたらプラント42がいるんだもん。

デザートイーグルをホルスターから抜く間も無くH&K MP5K

A4をぶちかましたよ。

ドパパパパとまあ、二丁流で。

ハイ……………

言われるまでも無く、ミンチ? (樹だしね) を超える勢いでバラバラに…………… 弾丸をバラ撒きましたよ……………

「イヤヤー……………!!」
つと。

ベロニカのステイプもビックリに。

ぐったり?と鳶の垂れ下がったプラント42、しかしバイオ本編やった事のある俺は油断をしない。

天井からぶら下がる球根のようなプラント42にデザートイーグルをぶち込みます。

天井から酸をたらす余裕すら与えません。
あつと言つ間にプラント42を倒しました。

ま、まだ手の震えが止まらん……………

倒しても弾切れまで撃ち込み続ける奴の気持ちは良く解りますよ、
今は。

……………弾は切れんが……………

暖炉の上にあつた鍵はきちんと取りました。

はい、兜の形が刻まれた鍵ですね。

とりあえずこれをクリスに届けないと……………

一旦、洋館を目指しますか……………

はあ………
嫌だな、ハンター………

洋館事件 ぱくと9

さっさとクリスに追い付く為に、サブマシンガン片手に突っ走りますよ。

ケルベロスもハンターも、足を止めずに走り撃ちを行う俺にはかありません、一発で倒せないなら……と数の暴力です。

《キシヤー》

ハイ、ハンター倒した…つと。

クリス!!…どこだー!!

あくびにもそんな大声は出しません。

敵には音で反応するタイプもいましたから。

可能性の高い図書室目指して(ついでに書斎からMOディスク拾って)

物置前で弾幕展開中

ハンター速ええ!!

もう一丁のサブマシンガンを抜き二丁でハンターに弾丸を叩き込む

……

ええい……!! アンブレラ社の生物兵器は化け物か!?

………つて化け物だ……orz。

階段上がって右手にいるハンターにデザートイーグルの50AEをプレゼント、一撃の元吹き飛ばす。

と同時に背後から来るが反対の手で持ったサブマシンガンで弾幕を

形成。

ふっ！！ 左右によける余裕の無い狭い通路で戦ったのが仇となっ
たな！

見なくても（っ）が見たくないけど）悲鳴でハンターに命中してい
るのがわかる。

そして本来コの字廊下から迂回しなければならぬ図書室に扉をデ
ザートイーグルを何発も撃ち込んでぶっ血k i l l e r！！

（ぶっちぎる）

タックルして穴だらけのドアを破りカツコ良くキメましたが……

ええっと……

はい、ハンター死んでました。

扉を貫通したデザートイーグルがハンターを蜂の巣にしました。

……がむしゃら、って怖いですね。

まあ、レベッカ嬢助かりましたが。

とりあえずレベッカに鍵を託して西物置に行くよう指示。

下手すればまたハンターに襲われるが、イベントだし大丈夫。

中庭へ戻りましょ……

洋館事件 ぱくと10

さて……………貯水池まで戻って来たのですが…

デコ（ウエスカー）とバリーが寄宿舎から出てきましたよ。

慌て危険覚悟で林に身を隠しましたが……………一言二言話した後、デコ（ウエスカー）は洋館に行きました。

おお……………！！本編の裏舞台！！

思わずテンションがあがりますが、兎にも角にもまずやるべきはバリーとの接触です。
林から抜け出し……………

つてえ！！ アダー！！ アダー！！（へビ）

プチ・パニックでエレベーターで滝のところに降りると

「バリー」まあ普通に呼びかけます。

「ブラッド……………！？ お前、何でここに！？
後退したんじゃないのか！？」

驚いてる驚いてる。

と言つか後退命令知ってるって事はやっぱり家族をネタに脅されてるか……………

「この先の施設にヘリポートがあつてな。あのまま飛び続けても不味いし、それにそつちを放つて置けなかつたからな」
(そう、特にバリー、お前をな。)

「……そうか。俺は大丈夫だクリスと」

「さっきにクリスから聞いたよ。

“事情は知っている”」

わざと一部分を強調する。どこで聞かれてるかわからないからな。

「……!?!」

気づいてくれたみたいだ、なら……

「大丈夫か……?」

クリスから聞いたよ、疲れてるんだろ。そんなん様子じゃ

間違いを起こす”んじゃ無いか?」

そう言つて背中を叩くと、反対の手でメモを二枚ほど渡す。

「俺の方は大丈夫だから、クリスに付いてやってくれ、腕は良いが、奴は無理をし過ぎるきらいがある。」

「……ああ、わかつた。」

そう言つてバリーはウエスカーと同じようにエレベーターに乗るとクリス達の居る洋館へと向かつて行つたら。

……… サイドパックから固形燃料を取り出すとジッポで火を着け、紙製のコンロに入れる。

このコンロ、意外に火力があり、コーヒーを淹れる（温める）位は
お手のものだ。

都会の灯りにまぎれ、見えない星空も、周囲が森林に囲まれたここ
では良く見える。

6月とは言え、夜はまだ結構冷える。

コーヒーで暖を取りながら観る余裕の無かった星空を眺める……

うん、完璧だ……

化け物さえいなければ。

さっきにバリーに渡したメモは、一つは研究施設の警備システム資料だ、アレには顧問研究員（A・ウエスカー）とはつきりと書かれている。

これにより俺もウエスカーの正体は知っていることがバリーにもわかったはずだ。

もう一つは自作のメモだが

8108310

と書かれている。

これは洋館西、西階段と西側廊下を繋ぐ扉のロックナンバーだ。

クリスには生き残って欲しいからね、少しでも可能性を上げないと。

洋館事件 ぱくと11

暫くしてバリーが戻ってきました。

コトコト飲むう〜？

何てゆ〜か、その……寛いじゃってます。

なんかすいません。

所謂、現実逃避と言う奴です。

冗談です。

きちんと現実として受け止めています、だからこそ余裕と言う物を持たなければならぬのです。

根詰めるのは良くないだろ？

バリーからウエスカーが側に居ないことを確かめると、盗聴器等へ注意しつつ二〜三今後について確認を取る。

ついでにクリスと接触しないために寄宿舎前通路へと移動します。

DS版じゃないかと念の為に大広間を調べましたが、最後の書は無かったし。

とりあえずはウエスカーにエンリコを射殺させないこと。

デコはクリスの後ろにびつちりとくっ付いている。

デコは後退させてはならない、足止めしなければならぬのだ。

ハゲ……ではない。

ウエスカーと接触、足止めするとなるとこの役目はバリーとなる。

地下道でクリスをサポートかつエンリコの安全を確保するのは俺の役目となった。

クリスに合わにゃならぬのか……

デコに恨まれませんように

デコに恨まれませんように

デコに恨まれませんように

いないと思うけど神様仏様大明神と

……んお!?

クリスが来たな。

もう一つのエレベーターにバッテリーをはめましたか。

上昇していくクリス。

そしてウエスカーに連絡を取るバリー

よおし、んでは私はクリスが水を止めてくれますから一足先に地下道へと突入しますか。

と言う訳でやってきました地下道です。

クリスと合流するつもりですから。

入ってすぐの、実際はバリーがいたところに立ちます。

…

…

…

…

背後で扉の開いた音がします。

振り返ると……

「ジョセフ……!?!?」

クリスから生きている事は知らされていましたが……

まさかこのタイミングで来るとは……

後ろには俺の上げた44マグナムを持ったクリスがいますよ。

「クリスから聞いたよ。無事だったか!?!?」

ジョセフが速攻で声をかけてきます。

「ああ、なんとかな。」

「訳わかんねえ所だな、ここは緑色のゴリラみたいなばけもんも出てくるし。」

ケネスやフォレストも……………」

「わかってる、速いところシルやブラヴオーチームの生存者を見つけずらかるっ」

傍らで話を聞いていたクリスも混ざってくる。

「そうと決まれば話は早い、この地下道を抜けてヘリポートまで行くっ。」

「ジョセフ、落ち着け。」

……………さっき銃声が聞こえたんだ、どこかに生存者がいるはず何だが。」

無論、出任せだエンリコを搜索させる口実に過ぎない。「わかった、三手に別れて搜索しよう。」おいオイ正気かクリス君

「いや、ここは危険だ、暗がり紛れて襲われたら打つ手が無い。」

多少の効率は無視してもバラバラになるのは避けるべきだ。」

……………

（おっ、考えてる考えてる

多分、バリーん時に出た

「一緒に行動しますか YES NO」だな)

「わかった……ブラッドが言うならそうしよう。」

おおく乗ってくれたか。

「オーケー クリス、ポイントマンを頼む、ジョセフはその後ろに付いてくれ、俺が殿を務める」
普段のポジションから考えれば当然の配置だ。

「わかった、行くぜクリス!!」

一人で突っ走ろうとするジョセフ、
さすが説明書だか攻略本に血の気が多いとかかれてただけはある。

「待てよ、クリス、ジョセフ こいつをやるよ。」

そうやって手渡したのはクリスには12番径のショットシエル

ジョセフには40ミリのグレネードだ。

クリスが渡したのであろうグレネードがショットガンのかわりにぶら下がっているのが見える。

暖炉用の薪に調達してきたオイルを染み込ませた布を巻いた安易な松明を灯りに、三人は歩き出した。

洋館事件 ぱくと12

「ブラッドか？」

この声は、ええ あの方です。

「エンリコ？」

わかってるけど返事はしませんさ。

「生きてたのか!？」

ジョセフ、失礼だぞ、一応にもS・T・A・R・Sの副隊長だ。簡単にはくたばらん。

「待て、ジョセフと二人か？」

「いや、クリスもいる？」

タイミングは……

「S・T・A・R・Sはもう終わりだ、誰か裏切者がいる。アンブレラにはめられたんだ！」

……いまだ!!

エンリコヘタツクルをかけるとホルスターからデザートイーグルを抜く……!!

一瞬こちらに銃口を向けるがクリスだが、直後に響いた銃声と共に飛来した弾丸がエンリコの心臓があった、今は俺の右手を貫く……!!

倒れ込んだまま、左手でデザートイーグルをぶちかますと同時に

「野郎……!!」

怒りに顔を真っ赤にしたジョセフが足音を追って行った。

倒れたままの姿勢でクリスに叫ぶ!!

「クリス!! ジョセフを頼む!! 奴は頭に血が昇ってる。アレ
じやいいカモだ!!」

そう言うところクリスは一瞬戸惑う仕草を見せた物の、ジョセフを追って行った。

サイドバックから救急スプレーボックスを取り出すと、中からスプレーを取り出し 傷口に吹き付ける。

このスプレーはアンブレラの“まともな商品”の一つだ。

もう一本、スプレーを取り出すとエンリコの足の怪我に塗布する。

……よし、ここでネタばらし。

「エンリコ、裏切り者はウエスカーだ。」

「なんだって!?!」

「バリーが家族をネタに脅されていた、俺たちは此処に誘い込まれたんだ。」

「……………」

「とりあえず、ウエスカーに捕まっているジルを助け出してここを脱出する予定だ、へりまで歩けるか?」

「歩くには少々辛いが……大丈夫だ。」

エンリコに肩を貸すと薄暗い通路を歩き出した。

洋館事件 ぱくと13

エンリコはヘリポートまでの通路に救急ボックスを預けて押し込んで置いた。

クリス達は既に研究施設に入っているだろう。

通路のゲートに細工を施し、自分以外に開けられないようにする、エンリコには悪いが、これが彼のためだ。

梯子を降り、扉を出て階段を降りるとそこは研究施設へと繋がる口の字回廊、そこを確保していたらしいジョセフと再会した。

「ブラッド、傷はもう良いのか？」

「ああ、銃を撃つのは左手でも出来る。」事実、右利きのブラッドを左利きに矯正したため俺は両利きだ。

「すまないな、手前の腕に風穴開けた奴、見失っちゃった。」

「構わないさ、痛みは一時のものだ、それよりもジョセフ、お前が無事で良かった。」

「何で俺なんだ？」

わからないのかねえ、その性格が危ないのに。

「頭に血が登って冷静な判断が出来て無かったからな。あれじゃ殺してください、と言ってるような物だぞ。」

「うっ…」

「勝手にあの場から離れたのも×だ、あれが俺らを分散させるの策なら、俺やエンリコ、クリスだって危なかった。」

「そりゃ……それについては謝るよ……」

「次から気を付けてくれよ？」

そう言いながらタバコを取り出し、ジッポで火を付ける。

これはポーズだ、俺は普段、タバコは吸わないし、酒も付き合いくらいでしか摂らない。

しかし、余裕を見せたり、場を落ち着かせる道具としてタバコは最適な小道具なのだ。

だから銘柄も適当、高すぎず、安すぎないものを適等を買う。

「ブラッド、一本分けてくれ無いか？」

な？ 場の雰囲気が変わり、余裕が出てきた。

「ホレ」

箱ごと放り投げ、ポケットに入れたジッポを取り出し、火を灯す。

「俺はクリスの方に行く、此処は頼むぞ。」

ジョセフはかるく片手を上げて応じ

俺は最終決戦の地を目指して歩き出した。

洋館事件 ぱくと14

扉をくぐると、通路の突き当たりにある扉、横にあるキーボードパ
ネルの前に立つ。

（ええっと、パスワードは無いんだよね）

ならそれなりのやり方で……………

ホルスターからデザートイーグルを取り出すと…

一発っ！！二発！！三発！！

パスワード入力機にぶち込んだ。

紫電を迸らせるだけで反応は無い……………

「うおおお……………！！！！！」

今度は扉にデザートイーグルをぶち込む！！

17〜8発程撃ち込んだ所で枠ごと扉が外へ倒れ込んだ。

倒れた扉を踏み越えて先へ進むと、そこは監禁部屋、ジルが捕らわ
れて部屋だ。

「ブラッド……………？」

銃声で気付いたのかジルがこちらに気付いているようだ。

「麗しきお姫様、騎兵隊のご到着ですよ。」

「茶化さないで、それよりウェスカーは……」

「言いたい事は全て知ってる、バリーも家族をネタに脅されてただけだ。」

そう言うと、バリーから預かったマスターキーで監禁部屋の鍵を開けた。

バリーはウェスカーからこの鍵をもらったらしい。

「ありがとう」

そう一言だけ、ジルはそっけなく感謝の意を告げると自ら扉を上げて出てきた。

「ジル、装備の方は大丈夫か？」

「ご生憎と、此処に閉じ込められる時に全部没収されたわ。」
平然と告げるジル。

「こいつを貸すよ、ジル 使ってくれ」

サムライエッジと、いくつか拾っておいたマガジンをジルに渡す。

「必ず返してくれよ、俺はクリスの方に行かなきゃならん。」

ジルにヘリポートへの通路前のホールに言うよう告げると、下へと降りるために部屋を出て行った。

タッチの差でタイムラント下行きのエレベーターが降りて行った。

乗っていたのはクリスとバリー レベッカ、それにウエスカーだ。

エレベーターを呼び出すと、同じようにエレベーターを降下させた。

洋館事件 ぱくと15

「クリス、こつちだ。」

バリーの案内に従い、廊下の曲がり角を曲がり、扉の前に立つ。

「この部屋だ。」

不意にバリーこちらに向き直ると、手に持っていたコルトパイソンをレベッカに向けて発砲した！！

「バリー！？」

「よくやった。バリー」

そう言いながらウエスカーも後ろから銃を突きつけてくる。

「ウエスカー！？ それにバリーどういう事だ！！」

「まあ バリーを責めるな、私の命令を実行しないと可愛い娘と妻の命が危つくなるぞうだ。」

「よくも人ごとのように人質を取って置いて！！」

「気にすることはない、じきにみんなこの世からいなくなる。」

「何故こんな真似をした！？」

「此処では少々厄介な実験をしていてね、実際に事故を起こしたとなると世間の評価はがた落ちだ。

そしてその機密を嗅ぎ回るS・T・A・R・Sが厄介だった、アンブレラの意向さ」

「まるで虫けらだな、ウエスカー。」

^{アンブレラ}女王に従うだけしか頭脳を持たない、ここいらをうろつく化け物とおんなじた。」

「クリス……！！」

ウエスカーが激昂し、頭に銃をポイントする。

ドオン……

乾いた、低く響く銃に思わず目を閉じたクリスだったが、何時までも死は訪れない、肉を打つ音が聞こえ目を開くと、昏倒したウエスカーと、彼を殴り倒したらしきバリーが見えた。

「イエイ！！」

声が聞こえる方を見れば通路突き当たり、エレベーター前で大きく寝そべり、伏射姿勢でライフルを構えたブラッドが見えた。

どうやら彼がウエスカーの銃を撃ち抜き、その瞬間をバリーがウエスカーに殴りかかったらしい。

「無事か！？ クリス！！」

ブラッドがこちらの安否を確認するが、それより今は……！！

「それよりもレベツカだ！！ レベツカ、死ぬな！！」

倒れたレベツカを抱きかかえると撃たれた当たりを看ようとして……

「落ち着け、クリス、大丈夫だ。
俺が撃つたのは模擬弾だ、気絶しただけで問題は無い」

レベツカの無事を確認すると、タイミングを見計らい、再びバリーが口を開いた。

「いいか？ クリス」「あつ、ああ。 何だバリー」

「この部屋の中に奴曰わく究極の生物兵器があるらしい。
そいつを確かめてやるうぜー！」

「危険だ！！ それよりも早くここから脱出するべきだ。
ブラッドが反対意見を述べるが……」

「おいおい、俺達は何だ……？
スクール チャイルド（小学生）の引率か？
そんな奴を生かして置くのがS・T・A・R・S・か？」

「ああ…そうだろー！！」

クリスも乗り気だ……

「バリー、家族の事だけど…良いのか？」その心配はもつともだろ
う、しかし……

ふと、不安になったのか、クリスか心配そうに声をバリーにかける。

「大丈夫だ家族の旅行先、カマかけてみたんだが、な。」
髭面をなでながら、ニヤリと笑う

「何だよ、それ」

クリスは思わず苦笑した。

ブラッドはレベッカにジャケットを毛布のようにかけると、クリスやバリーに促されて“究極の生物兵器”のある部屋へと入って行った。

洋館事件 ぱくと16

((やっぱりかー！！！！！))

俺は心の中で大絶叫していた。

せめてウエスカーに手錠か、無理なら止めを刺して置きたかったのだが、それをする間も無く、クリスに猫の子もかくやと首根っこ掴まれて実験室？ に引っ張られて行った。

そしてやはり、バリーがコンピュータを弄り、タイラントを目覚めさせてしまうと、一撃で気絶させられてしまった。

最悪だ、最悪のジョウキョウダ。

ライフルを片手に距離を開けると、右胸から露出した心臓めがけてライフルの引き金を引き絞った。

スコープを使うまでもない、的は十分でかい。

クリスもマグナムを撃ち込むともの数分でタイラントが沈黙した。

バリーを起こすと部屋からでる。

エレベーターを指して角を曲がるうとした所、銃声一発、先頭にいたブラッドの胸に弾丸が直撃した！！

戦いの間に目を覚ましたらしいデコがレベツカの拳銃でこちらを撃つたのだ。

こちらもクリスやバリーが銃を向けるが一瞬早くエレベーターに飛び乗ったウエスカーに逃げられてしまった。

「ブラッド!! そんな……!」

クリスの表情に落胆の色が浮かぶ……

「おいおい、人を簡単に殺し過ぎだ」

「ブラッド!? 大丈夫なのか!?!」

「こんな事で死んじゃあミスターラッキーの名折れだ。」

そう、言いながら胸ポケットから取り出すはブローニングの壊れたスライド。

あの時にブラッドの命を救ったブローニングのスライドは再びブラッドの命を救ったのだ。

「お前………どんな運してるんだ?」

バリーは呆れて物も言えないようだ。

「知るかつ!!!」

くだらない漫談をすると警報が鳴り響き、自爆装置が作動した事を告げる。

「ウエスカーか!?!」

「クリス、ウエスカーの方を頼む!!」

バリー、手を貸せ、レベツカを!!!」

クリスはウエスカーの確保に動力室に
バリーと俺はヘリポートのヘリへ、レベッカを運ぶために揃って動
き出した。

洋館事件 ぱくと17

クリスにデコを確保するように言ったのはあくまでも時間稼ぎだ。

途中ジョセフと合流し、目を覚ましたレベッカと二人に現状を要約して話す。

通路を駆け、梯子を登り、細工をしていた扉をこじ開けると、ジルとエンリコが待っていた、バリーが持っていたバッテリーをスロットにはめると、エレベーターに電気が通り、動かせるようになる。その時入り口の方からハンターの、蛇がするようなシューという鳴き声が聞こえた。

「レディ・ファーストだ、先に行け、ジル、レベッカ」
バリーが女性二人に先に行くように言う。

「私は大丈夫、今までゆっくりしていたんだから、少し位働かせて？」
ジルがウインクと冗談で返すと俺のサムライ・エッジを構える。

「エンリコ、あんたもだ。その脚じゃあへりまで間に合わないぞ」
ホルスターから銃を取り出したエンリコに対し。

シヨットガンのポンプを引き、初弾を薬室に装填しながらジョセフがエンリコを止める。

「俺はへりをすぐ出せる用に準備しておく、クリスが追いつき次第、すぐに上がって来てくれ、死に急ぐなよ。」

エンリコに肩を貸すと、レベッカと俺、エンリコの3人はエレベーターで地表のヘリポートへと上がって行った。

ヘリポート………本来ここではヘリで飛び回る俺を信号弾で呼び寄せるはずだった。

しかし脱出手段であるヘリは、既に止まり木たるヘリポートにその巨躯を休ませている。

エンリコをヘリのシートに座らせると、右の操縦席に乗り込む。

エンジンに火を入れ、ローターを回す……

“こちら”に来てから何度も繰り返した“作業”だ、もはや目隠しをしても出来るだろう。

ふと、ルームミラーに目をやる、クリスらを収容するために開け放たれたドア、そこから見えるコンクリートの床がひび割れるのが見えた。

とっさに操縦桿を引き、ヘリを離陸させるのと、タイラント、クリスら4人がヘリポートへと上がって来るのは同時だった。

洋館事件 ぱくと18 (前書き)

洋館事件 完結!!

洋館事件 ぱくと18

急上昇の煽りを受けたのはレベッカだ。

クリスらが来るのを今か今かと開け放したドアの前に立っていたレベッカは、その弾みに狭い機内から飛び出し、腕一本ギリギリでぶら下がっている状況だ。

「クソッ!! レベッカ!!」

へりを操縦している以上、操縦席を離れる訳には行かない。

(マズい……!!)

レベッカに意識が向き、気が気でない。

レベッカの細腕が徐々に重みに堪えられず、滲み出た汗が手を滑らせる……

ついに手がへりから離れ、重力に従い落下する……

その身を掴み取ったのはエンリコだった。

間一髪、シートから飛び出したエンリコは腕を掴み、へりの中へレベッカを引き込んでいた。

ジルがハンドガンを片手に攪乱し、ジョセフがショットガンで牽制、バリーと俺がマグナムを撃ち込む、上空のへりからサブマシンガンでバラ撒かれる弾丸が奴の身動きを封じる。

再びジルが攪乱する。

この繰り返しにより、少しずつだが、確実にダメージが蓄積していく……

「クソオ！！ いい加減キリが無いぜ！！」

ジョセフが苛立ちを口にしたその時、へりから何かが投下された。

“それ”に一瞬気がとられ、“奴”の接近を許すが、半ばスライディングのように地面を滑り、爪をくぐり抜ける。

勢いでそのまま進む“奴”を尻目に、へりから投下された“それ”までダッシュすると照準を確かめるまでもなく引き金を引き絞った……

“ロケットランチャー”

タイラントをも一撃で倒せる必殺の武器。

趣味でバリーがこっそりと積み込んでいた、本来押収品である。

レベッカの事があり、タイラント戦と同時に使用する事は出来なかったが、早急に使用できた部類に入るだろう。

内部に充填された炸薬に点火して、タイラントのその巨躯を一撃で撃ち碎いた。

確実に安全になったヘリポートへと再び降下すると、クリス、ジル、バリー、ジョセフ……

生き残ったS・T・A・R・Sのメンバーがヘリへと乗り込む。

全員が乗り込んだ事を確認すると、ヘリを全力で離陸させた。

間一髪、自爆装置が作動し、洋館や研究所が炎に包まれる……

そして、俺達S・T・A・R・Sはあの狂った洋館から脱出した。

バリー

……愛用のマグナムを整備している。

ジョセフ

……コンバットハイか、やけに落ち着きが無い。

レベッカ

……疲れたのか、すやすやと寝息を立てている。

クリス

……シートに疲れきった表情で座っている。

ジル

……エンリコの怪我を見ている。

エンリコ

……怪我の手当てを受けながら、クリスらが洋館で見つけたファイルを眺めている。

ブラッド

へりを操縦している。

洋館事件生存者……7名。

…

……

……

……

……

……

…

…

…

以上が、今回の調査結果のすべてである。だが、このように事件の全貌が解明されるにつれ、あるひとつの危惧が膨れ上がることを禁じざるを得ない。つまり、ウイルスの汚染は、本当にこれで終わったのだろうか？

ということだ。

アンブレラ社の強制捜査で判明したことだが、アークレイ山中の施

設を汚染したウイルスの性質は、まだ未知数の部分が大いらしい。

当委員会顧問の細菌学者は、感染力が極端に低いP3レベルのウイルス

(同用のものにエイズウイルスがある)

ではないか、との見解を示しているが、

それも単なる推測に過ぎない。

現在、当施設敷地外への汚染は確認されていないが、予断を許さない状況は当分持続しそうだ、

…

……

……

……

……

最悪のシナリオだが、ラクーン市街地の汚染も考慮し、今後の対応策を検討していくべきだろ

痒

THE END………?

小話：ブラッドの所持品（前書き）

とりあえずブラッドが何を持っているかご都合主義にならないように所持品を書いときます。

前述の通り、ブラッドはアイテムキャパが（憑依者が慎重で大量にアイテムを持ち歩く為）

アイテムキャパが10程あります。

その所持品の遍歴を今ここに明かします。

小話：ブラッドの所持品

このブラッドの所持品を

開始時

1：ハンドガン

ベレッタ「サムライエッジ・カスタム」

2：ハンドガン

ブローニングHP

3：リボルバーマグナム

S & W M 6 2 9

4：マグナム弾（4 × 6）

4 4 マグナム弾

5 〃 6：サブマシンガン（二個消費）

H & K：MP 5 K A 4（2丁所持）

7：スナイパーライフル

H & K：PSG 1

8：救急スプレーボックス

9：マグナム

DE 5 0 A E 2

………何という対ラスボス戦使用w

いずれもブラッドが所持している間は です。

アイテム仕訳（譲渡・紛失&入手）

表示は

譲渡及び入手物品（譲渡者：入手場所）
アイテムキャパ
です。

リボルバーマグナム、マグナム弾譲渡 クリス
7 / 10

兜の鍵入手 寄宿舍大広間
8 / 10

MOディスク入手 書斎
9 / 10

兜の鍵譲渡 レベツカ
8 / 10

グレネード弾、ショットガンの弾入手 そこら
10 / 10

グレネード弾、ショットガンの弾譲渡 クリス&ジヨセフ
8 / 10

常にギリギリ

自転車操業のアイテムキャパ

ハンドガンを二つ所持は紛失（イベント？発生）に備えて

ちなみにマグナムはリボルバーの方を譲渡前提だからです。

まだ一度も使われていないのはスナイパーライフルですがこれから
ガシガシ使うのは予告しときます。救急ボックス譲渡 エンリコ

7 / 1 0

ベレッタのマガジン入手 そちらへん

8 / 1 0

サムライエッジ、ベレッタのマガジン

譲渡 ジル

6 / 1 0

いんたぐみっしょん・？

さて……………洋館事件は正史よりもより多くの人間ジョセラ・エンリコが生存した訳ですが……………

やっぱり洋館の事は握り潰されますか……………

やっぱりアンブレラとつながってる変態な肥満体。

Gに胚でも産みつけられて引き裂かれてしまえ！！

まあ、原作通り洋館事件を積極的に言及はしないから愚痴った所で意味はない。

しても結局ラクーンシティは汚染されますから。

いくら警察で騒いでも、アンブレラの部隊やウィリアム・バーキンを止める事は出来ないしね。

それに下手に目を付けられて身動き取れなくされたら元も子もない。

ケンドに頼んでカスタムしたブローニングも届いたし。

9/28(3)まで出来る限り武器各種の調達しますか……………

そくだ！！ 大学行ってデイトライトを……………って！！

無理！！

「V-ポイズン」と「P-ベース」は良いとしてT-ブラッドが調

達できへんし。

とりあえずひたすら装備を調達しときますかね。

準備期間

ええ〜つと、ハイ。

クリスに殴り飛ばされました。

右ストレート!!!

(、´、´サーー!! ありがとうございます)

どうやら原作通りアンブレラを積極的に言及しなかった事が怒りの火種らしい。

ジルの日記通り、苛立ってますか……。

((クリス……場所を移そう。

>ここじゃ“目”や“耳”が多すぎる。 <

“あんまり熱くなるなよ”()

ギリギリ聞こえるか聞こえないかにボリュームを絞ってクリスに告げる。

隊長のウエスカーは知らなかったが、耳や目とはS・T・A・R・S・の現場組で決めた内で決めた尾行や監視の符丁である。

クリスがはつとした表情になると、こちらの胸ぐらを掴み上げ……

「殴る価値もない……」

そう呟くと、こちらを下ろし、さっさといった。

乱れた衣服を整えると回れ右、警察署を抜け出し。

S・T・A・R・S・宴会があつたバーへと向かう。

“あまり熱くなるな”

こちらの符丁は、喧嘩のフリをしろ、だ。

胸ぐらを掴まれた時に、抵抗する素振りで袖口から待ち合わせ場所をメモした紙切れを入れた。

さて……………

…

…

なんて言い訳しよう……？

クリスへの助言

えっ!?

クリスは思わず隣に座る男の顔を見返した。

S・T・A・R・S・結成時から鼻屑にしていたバー

あの時と同じ席に座っていたブラッドが告げた内容に、驚きを隠せ
ずにいる。

「考えても見ろ、ハンターの実験台にされた人間……………」

ホームレスやアンブレラの施設に迷い込んだ奴らを使っていたらし
いが……………あれほどの規模がある施設が、今まで一切話が上がつて来
ない方がおかしくないか?」

ブラッドの指している事実、それは……………」

「内通者が居るって言うのか……………」

少し周囲を見回すと、耳打ちをするようにブラッドが告げた……………」

「ああ、それも……………揉み消しの規模から言って上層部にだ。」

「俺が積極的に動かなかつた理由、それは内通者を懸念して、だ。

俺たちがアンブレラを嗅ぎ回れば……………」

「……………!!」

内通者はそれを排除しようとする……！！」

「そう言う事だ、俺はその内通者を調べている。

……正直に言うとお前たちを囿にしているのも同然なんだが…

……」

ブラッドが言いづらそうに顔を歪ませる。

「構わないさ、洋館の時はお前のおかげで助かったんだ、それ位の借りはある。」

「すまない……」

代わりと言ってはなんだが……

このラクーンに、もう一つ大きな研究

“G”と呼ばれる研究をしているらしい。」

……！！

調べてみる価値は有る

明日、いや……もう今日……か、

腕時計の日付は8/12になったことを示している。

ともかくバリーやジョセフに相談して調べてみよう。

「すまない……」

マークされている以上、直接的には関われないからな、どうしてもこう言う形になる。」

そう言うと、ブラッドはマスターに話を通して裏口からバーを出て言った。

ジルの日記

8月7日

あの日から2週間が経っていた。

身体の傷はすでに消え、周囲の私に対するぎこちない気遣いもなくなった。

人々にとって、それはもう過ぎ去ったことなのだ。

しかし私は目を閉じるたびに、それが鮮明によりみがえってくる。生肉を食らう人のなれの果て、怪物に生きながらむさぼられる仲間の悲鳴。

心の傷は今も消えてはいないのだ。

8月9日

ブラッドはあの事件以来、私達から距離を置くようにしているようだ、あの恐ろしい洋館の事も、何も話そうとはしていない。

以前のあの冷静で、かつ知的な彼はどこに行ったのだろうか、アンブレラ相手に戦う事が、生き残る道だと言っのに。

8月13日

クリスは最近もめごとを起こすことが多くなった。

あまり他の署員と口をきかなくなり、いつもいらいらとしている。

今日も口喧嘩からブラッドに殴りかかって胸ぐらを掴み、壁へと押

し付けるまで発展した。私が止めるまでも無く、クリスは落胆したように去っていった。
クリスはどうしてしまったのか・・・。

8月15日

深夜、謹慎を命じられているクリスに呼ばれ、私は彼のアパートをたずねた。

クリスは私を部屋に通すとすぐに数枚の紙片を押しつける。それは“G”とだけ題された、ウィルス研究論文の一部であった。クリスは、「ブラッドが教えてくれた」彼は重々しく口を開くと「悪夢の続きだ」といった。「まだ、あれは終わっていない」と。
彼はあの日以来、休息もなく戦いつづけていた。
そしてもうひとりの彼も、彼なりのやり方で戦っていたのだ。私にも告げずに。

8月24日

今日、クリスとジョセフは欧州へ旅立つために街を離れた。バリーはエンリコと共に一度家族をカナダへ送り、その後を追うといていた。私はブラッドと共にラクーンシティに残ることになる。この街に残る研究施設が重要な施設であることを知らされたからだ。

クリス達には一ヶ月ほど遅れるが、欧州のどこかで彼らと落ち合うことになるだろう。その時こそ、私達S・T・A・R・Sの本当

の戦いは始まるのだ。

ジルの日記（後書き）

まだ3本編には入りません。

ジルの日記に一部革変が見られますw

クリス達をごまかす為に“内通者”を探ると言った嘘が彼をジルと共にラクーンシティへと残留する事を決定付けました。

ラクーンシティ 壊滅事件（前書き）

誤字訂正版

ラクーンシティ 壊滅事件

それはありきたりの九月だった

人々に立ち向かう勇気さえあれば・・・

アンブレラに逆らおうとする者はいない

それが破滅への選択なのに・・・

愚かさのつけを払う事になるだろう

許しをこころにはすべてが遅すぎると

運命が流れはじめたとき

それをとどめることはできないだろう

誰にも・・・

最後の九月が過ぎ去ろうとしている

それを理解しているのは私達だけだ・・・

主産業の八割以上がアンブレラが支えているこの街は正しく“アンブレラの街”と言えるであろう。

この街でアンブレラに逆らえるものはいない、住民は大半がアンブレラ関係者かその家族だ。

私達 S・T・A・R・S も市警察の一部門ながらアンブレラがスポンサーであった。

アンブレラが作り出した悪魔は確実にこの街を犯し始めている。

それに気付いていたのは三ヶ月まえの“あの事件”を生き延びた私達ぐらいだろう。

私、ジル・バレンタインはラクーンシティからの脱出するために動き出した。

火の海と化したアパートの扉をこじ開けると、間一髪。ホールは爆発し、扉は吹き飛んだ。

中から体中を焼かれながら火から逃れようとする人々

いや、彼らはもう人とは呼べないかもしれない。

その人形ひとがたは、体表に対して三割以上のやけどを負っている。

普通なら生きてはいまい。

弛緩しきつた声帯が何とも表現し難い低いうなり声を上げる。

それは聞く者が聞けば“あ”

また違うものが聞けば“お”
と知性の感じられる事の無い鳴き声のようだった。

私は迷う事なく、彼らの眉間へと向けて手に持ったベレッタを撃つ。

普通の拳銃に比べて早いスパンで放たれる弾丸は次々と歩く死者へ

と吸い込まれるように当たって行く。

辺りのゾンビを倒した所で、事故車やバリケード、火災が行く手を阻む中。唯一通れそうな高さのコンテナを乗り越えた時、私は自身の迂闊さを呪った。

通りの右側から、反対の左側から。

溢れるようにゾンビ達が出てきたのだ。

コンテナを登って戻ると言うにもそこからゾンビ達が迫っている。

ハンドガンで戦うにも、数が多すぎる。

弾が切れるのが先か、数に押し切られるのが先か……私は一瞬、死を覚悟した……

「ジル!!伏せる!!」

大声が響き、誰か、を確かめる間もなく体を地面に倒した。

声が出た方に目をやるとショットガンを構えたブラッドが見えた。

一発 二発 三発 四発

装填されているのはスラッグらしく。

銃声と共にゾンビが次々と倒れて行く。

ショットガンをこちらに放り投げるとストラップで下げていたクルツを横向きに持ち替え、掃射。

ハンドガンと同じ九ミリ弾が次々と吐き出されて対象の肉を引き裂

く。

私も地面を滑ってきたショットガンを受け取ると銃剣の要領でそのままの姿勢でショットガンを突き出して顎に突き出す。

ゴリツと骨が碎ける感覚がグリップを通して伝わるが気にする事ではない。

体のバネを使い起きあがると残った弾丸を奴らに撃ち込む。すかさず隣に立ったブラッドがクリップでまとめられたショットガンの弾を寄越した。

装填するとポンプを引き、薬室に弾丸を送り込む。

真正面に突っ立ったゾンビにタックルをかけて転ばせるとショットガンで吹き飛ばす。

その間に迫っていたゾンビをブラッドがデザートイーグルの50口径と言う馬鹿げた拳銃でブチ抜く。

こうして多数いたゾンビ達はあっという間に全滅した。

「ありがとうブラッド助かったわ」

「どういたしましてお姫様、ってな」

洋館事件以来この言い回しが気に入ったのかおどけたようにブラッドが言う。

「……………」

口にするまでもなく、嫌みを込めて彼を睨む。

「……………あやまるよ……………だから睨むのは止めてくれ……………」

わかればよろしい

再びゾンビが群を成して迫ってきた。

私がショットガンを構えるとブラッドが

「相手をするより逃げた方が早い!!」

そう叫ぶが速いか、傍らのドアにデザートイーグルをぶち込み扉を吹き飛ばした。

「ジル!!こっちだ!!」

ブラッドが両手に持ったクルツをゾンビに向かって乱射しながら先に行くように促す。

もはや肉の壁と化したゾンビの前に、私は一目散に駆け出した。

ダウンタウン：倉庫／警察署

9月28日 昼

今はもう逃げ惑う人々の声はない。

しかし……私達はまだ生き延びている。「……そろそろここを出た方が良いわね」私は外の様子を窺うために窓際に立っていたのだが、話し合いをするために中へと戻る。

「正気か！？ 私は表で娘を失ったんだぞ！！」

騒いでいるのはダリオ・ロツソと言う小太りの中年男性だ、娘を失って少々気が立っているらしい。

「残念だが……もう助けはこないぞ？」
奥でコードやら基盤やらビニールテープで括り付けられたトランジスタ・ラジオを聞きながらクルツの整備をしていたブラッドが告げる。

「警察隊は全滅、アンブレラの投入した傭兵部隊も壊滅状態らしい……最もまだ生き残りはいるようだがな？」

どうやらラジオを警察無線や隊内無線を受信出来るようにしているらしい。

銃器の整備から食糧の確保、さらに無線機まで。

……実に頼りになる男だ……

「絶対外には出んぞ！！ 外に出て化けものに喰われるならここで飢え死にした方がマシだ！！」

言うが早いのか、男性はコンテナの中に閉じこもってしまった。

ブラッドは やれやれ と言わんばかりに肩をすくめるところちらに
向き直った。

「どつする？」

コンテナを見つめながら私が問うと、

「無理に連れて行くこととすれば足手まといになるだけだ」と実に彼らしい返答が帰ってきた。

事実パニックを起こした彼は足手まといにしかならない。

しかし、置いて行く訳にもいかない。

「脱出のメドがたったらそれを提示して納得して貰うしか無いだろう。」

それもそうね。

「ブラッド、武器の方は？」

「カスタムしたブローニング・HPとHK P7M13が一丁
パラベラム都合500発は拡張弾に改造済み。

マグナム(S & amp; W M629C)一丁、
弾はスピードローダーで8つ、(48発)

クルツが(HK MP5 A4 K)二丁に
マガジンが四つ

デザートイーグル(DE50AE2)一丁
にマガジンが6つ(48発)

スナイパーライフル（HK PSG-1）が一丁
弾が20発マガジンで3つ（60発）
ショットガンの予備弾も5ダース（60）発ある」

それを聞いて私は目眩がした……

この男……
ブラッド

一体……何と戦う気でいたのだろうか？

彼はニヤリと笑うと

「備えあれば憂い無し……ってな。

三ヶ月もあつたんだ、これ位楽さ。」

彼一人でこれほどまでの火器の調達するとは……

銃の腕前から情報戦（内通者）まで……

下手をすれば彼一人でも軍隊一個と戦える気がする。

「それでも無いぞ、

ブローニングとクルツ、デザートイーグルやPSG-1は洋館事件
の時から使ってた奴だし、マグナムはクリスから返してもらっただ
けだ。自分で調達したのは弾と、ショットガン位だ。」

事も無げに言うと、マグナムとショットガンの弾、9mmパラベラ
ムをマガジンで4つ程寄越した。

「装備は俺が持つよ。」

パラベラムはマガジンの持ち合わせが無いんでバラのままケースに入ってる、欲しければいつでも言ってくれ。」

ブローニングとP7のスライドを引くと二丁拳銃で構えたブラッドが立ち上がった。

私もベレッタのマガジンを確認するとスライドを引いてその後続いた。

s i d e B r a d

どうやらアイテム欄式四次元ポケットと四次元BOXは意外と常識らしい。

どう見てもでかいはずのマガジンがするとマガジンパウチの中に収まって行くのは自分でやりながら壮観だった。

あれだけの弾丸がマガジンパウチ5つ分で収まるなんて有り得ないだろう。

……………深く考えるのは止めよう。

PSG-1を背中に背負い、クルツを腿に下げる。

デザートイーグルをショルダーホルスターに収め。

腰にブローニングとP7のホルスターを下げる。

表に出るとジルが

「私がポイントマンになるわ、カバーをお願い。」

……まあ、主人公にお任せしますわね。
わしの両手、ハンドガンで塞がれてますし。

ジルは左手、正面の扉を開けると路地裏へと入っていった。階段を登ると不意に鉄製の扉が内側から弾け飛び、多数のゾンビが飛び出してきた。

扉にぶつかり、思いっきり吹き飛ばされたジルは尻餅をついている。両手に構えた二丁のハンドガンを構えんとすかさずトリガーを引き絞る。

全て眉間を狙い、確実に放って行く。

尻餅をついたジルを引き起こすと倉庫の中で打ち合わせた通り、警察署へと向かう。

ブティックなど、商店が並ぶ地区に入ると悲鳴が響いた。

ジルが駆けだし、通りの突きあたりに立った俺がライフルをスタンディング（立射）姿勢で構える。

進行方向に入るゾンビにスナイパーライフルを打ち込むと一気に悲鳴の音源にたどり着いジルがショットガンでゾンビを吹き飛ばす。

しかし、悲鳴を上げた時点ですでに手遅れだったらしく、俺がジルの傍らにたどり着くと心臓にダガーナイフを突き刺す所だった。

人間のまま死ねた“彼”に十字を切るとジルは相手の死体の、恐怖に歪み、開いた目蓋を閉じていた。

それだけで、表情が安らかに変わったように見える。

突き当たりまで行くと、再び路地裏を抜ける。

バリケードの向こうには大量のゾンビが見える。

「俺が警戒するからドアを……」
クルツに持ち替えると。

ドアの前に立つジルをかばうように立つ。

「……ダメねブラッド、がちりとロープで縛ってある。
油か何か、何かギトギトしてるし。」

それはわかってる、確かこのポケットに……と。

「あつた ジル、コイツでロープを焼き切れ。」

ポケットから取り出したのはマッチ、タバコを吸うときに使っていた奴だ。

二回、マッチの擦る音の後、マッチに火が灯り、ロープに火を押し付けるとあつという間に火はロープに燃え移った。

「……！！ ジル！！」

俺が叫ぶが速いか、バリケードが決壊し、ゾンビが飛び出して来る。

ジルがショットガンで吹き飛ばし、クルツで倒す。

ゾンビ達を倒し終わる頃にはロープは燃え尽き、路地裏は正常が訪れていた。

しかし、今のゾンビがほとんどが警官だった事が現状を伺わせる。
警察署前に出ると消火栓が噴水になってません。

……………？ アレ！？

特に妨害を受けずにラクーン市警に入れました。

バタフライ・エフェクトって奴だね、とりあえず　ここで触手　っ
てのは無くなりましたが。

油断は禁物、これからもネメシスちゃんは来るわけですし。

ハンター　や　グレイブティガーなんてのもいる。

油断大敵大胆不敵ってね。

警察署

警察署に入るとスタスタと先に行こうとするジルを呼び止めると「
ンコンピューターの所へ行く。」

「先んずこ言う所から情報を集めないと」

ジルが2、3端末をいじると

「ブラッド、S・T・A・R・S・カード持つてる？」

私、S・T・A・R・S・が解散になる、って話しになったときに、
署長にカード突き返しちゃったの……………」

「ホレ」

カードケースごとS・T・A・R・S・カードを渡してやる。

「S・T・A・R・S・メンバーへ連絡……………」

S・T・A・R・S・オフィスの鍵は押収物保管庫に保管しました
……………」

今日のナンバーは4312です……………」か、

良かったなジル。オフィス、カギかかってるらしいぞ。」

唯一、封鎖されていない扉を開けると数体のゾンビがいたがハンド
ガンで事は足りた。

「っ……………」ちっ！！」

オフィスの一角にある課長のデスクの前、一人の警官が倒れていた。

「マービンか…良い奴だったんだがな。」ポツリ、と一言漏らすと、

「まだ死んで無いわよ。」

ジルが口を挟む。

「相当重傷だ、手の施しようが無いさ。」

「そうね。」

「ジル、マービンの持ってた報告書だ、俺はデスクを調べる。」

ジルがファイルを読み耽る間に、デザートイーグルのマガジンを3つ程デスクの上に置いておく。

“後日ここに来る人”の事を考えてだ。

「オーケイ…行くぜ。ジル」

オフィスを出ると押収物保管庫だ、ここで青く輝く宝石とS・T・A・R・S・オフィスの鍵を回収すると、S・T・A・R・S・目指し歩を進めた。

途中ゾンビを迎撃しながらS・T・A・R・S・オフィスにたどり着くと。

ケンドの店からのFAXが届いていた。

ジルがデスクの上に置きっぱなしにしていたキーピックを回収する
と。

俺は壁のガンロッカーを開く。

中身はS & a m p : W M 6 2 9 C

…………閉めた。

持ってるものをわざわざもう一丁はイラネ。

外に出ようとすると、無線機が何かを受信したらしい。

ピコン。ピコンと受信音を立てる。

改造ラジオをいじると砂嵐交じりだが、カルロスが救援を求めている事はしっかりわかった。

オフィスを出ると来た道を引き返す。

階段を下りた所で…………

きたあああああああ！…………！！…………！！…………！！

ネメシス 七型！！

俺をぶっ殺してくれちゃった奴。

ジルにマグナムをパスするとデザートイーグルとクルツを両手に全

弾叩き込んでやりました。

マグナム二丁+サブマシンガンで一斉に撃たれればいくらネメシス
と言えども!!

ダウンしてる間に一気に逃げる!!

ってまだ来ますかネメシス!!
デザートイーグルぶち込まれて置いて……なんて頑丈なコ……

俺のポケをさっ引いても強いぞ……!!?

ちょ ちょたんま!!

何でジルじゃなくてこっちに来ますか!?

修正力!?

修正力!?

これが噂による修正力と言うものなのか!?
胸倉掴むなコラ!!

持ち上げるな!!

まじ3のムービー再現になるから!!

死んでたまるか!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

持ち上げられたそのままの姿勢から頭部にクルツを連発。

さしものネメシスも頭部への攻撃には耐えきれなかったらしく、手を離す。

……たすかつ………てなああい!!

ジルはとつくの昔にどこかへ逃げ、俺一人!!

!! D E A D !!

回れ!! 右!!

足踏み始め!!

前え!! 進め!!

こうして命からがら、警察署を後にしたのであった。

警察署（後書き）

この話でジルはブラッドを見捨てて逃げたのではなく、

“ネメシスから逃げるさいにはくれた”

だけです（たぶん）。

解りづらくてすみません。

ダウンタウン：警察署 アップタウン：新聞社

ゼーはー…

ゼーはー…ゼーはー…

ゼーはー…ゼーはー…ゼーはー…

ゼファーファントム…

判る奴いるかあああ!!

思わず自分でボケて自分で突っ込みまう位ハイテンションだぜっ
!!

MSネタ多いな……

ブラッドだよ!? 俺、ブラッドだよ!?

相手ネメシスだよ!? 生き残って良いの!?

助かっちゃったよ!?

世界の強制力だと思っただけど、

実際そんな事なかったぜ的な!!

守護者とかそんなも来なかったし!!

助かつちやっただよおおおおおお！！

《注・作者 しばらくお待ちください》

おえええ……

テンション上がりすぎた、はしゃぎすぎた頭……痛い……

はい……と言うわけで駐車場を抜けてアップタウンまで来ましたが……

レストランには行かずに新聞社へ。

俺のプレイが反映されるんなら宝石は新聞社に有りますから。

クルツを棒代わりに……

よっ、とお。

よし、ブレーカーのスイッチよし、と防火シャッターは急いで逃げる。

バックドラフトやらなにやら、火災の中の扉を開けるのは危険ですから。

二階の窓はクルツで蝶番撃ち抜いて扉がポーンっと言うわけでして。

少しお暑いとお思ひになられながらも階段をえっちら〜おっちら〜と登り続けました。

駐車場のオフィスから取り出したPSG 1を片手に。

廊下の突き当たりにある太ったゾンビにはブローニング+P7の二丁流ハンドガンでネンネして貰いました。

中の二体もハンドガンで倒して…

緑の宝石をとりましては……
外が騒がしいですよ？

S・T・A・R・S・i !!!!!!

まーたーでーすーかあー!?

あー!?

あー!?

窓突き破りましてビルから飛び降りまして………うっくん………ケツが痛い………

しかし今度は上からS・T・A・R・S・と叫び声が聞こえます。

俺狙い!?! 俺狙いですか!?!?

とりあえずは再び全力!!

市役所の入り口にいたジルに宝石投げ渡し。

クルツを二丁で構える。

……… スペシャルキーでジルを赤髪の彼女にコスプレさせれば良かったかな？

ジルが宝石を嵌めると同時にネメシスが通りに姿を表して来る。

シャッター開くのトロォー！！

クルツでネメシスの頭を集中的に狙いながら応戦するもシャッターはいまだに開かない。

“ぐおおおっ” じゃねえよ

転けてんじゃねえよ

走ってくんじゃねえよ

“ S・T・A・R・S・” じゃねえよ

“ 死んだフリ” するんじゃねえよ

ん………？

S・T・A・R・S・て言いながら死んだフリ………？

まさか……！？

慌て駆け寄るとネメシスの下敷きになっていたがやはりネメシスの下にアタツシュ・ケースが見える。

「1回ネメシス倒した!？」

倒したあ!! 俺、ネメシス倒したあ!？

アップタウン：路面電車へ傭兵会談

アタツシケースの中身はEAGLE6・0 Bパーツ、ジルがAパーツを持っているのでそのままジルへとプレゼント。

ジルが 良いの？ と聞いてきましたが、良いんです。俺には魔改造したブローニングが有りますから。それにハンドガンはP7が有るんでもう結構。

と言うわけで一気に路面電車まで移動。

通路にいたゾンビには鉛の“雨弾”をプレゼント。

ワン公はジルがショットガンで動きを止めた瞬間にデザートイーグルを撃ち込み。

御陀仏。ナーム

side jill

「あんたがこんな地獄に飛び込んだって言う物好きかい。」

私は自分の耳を疑った、何時もは口数こそ少ない物の、誰に対しても人当たりの良いブラッドが、白髪の男性に対し、いきなり相手を挑発するような態度をとったのだ。

「何者だ……………」

「S・T・A・R・S」の隊員だ、お前さんなら良く知ってい

るだろうよ?」

「……ラクーン市警の特殊警察部隊か。」そう言うと、白髪の男は踵、先頭車両に向かった。

「いったいどうしたのブラッド?」

「……別に、あいつを見ていたら匂いがしてな。」

「匂い……?」

「ウエスカーと同じ、薄汚い金と裏切りの匂いだ」

その時、奥から微かに、呻き声が聞こえる。

「怪我人……?」

「来るぞ、油断するな……撃て、撃て……分断されるな……」

力無く出される声は彼自身が体験した悪夢で有り、その目は虚ろに空を泳いでいる。

「ひどい怪我だな、落ち着け、今は安全だ。」

腰のポーチから包帯や、冷凍された輸血パックを取り出すとキビキビと応急処置の用意をしていく。

レベッカほどでは無いにしろ、レスキューや隊員が怪我をしたときの手当てをしているだけは有り、その動きに淀みは無い。

路面電車へ発車目前

ミハエル・ヴィクトール

原作では、ネメシスからジルを庇い、グレネードで自爆した。

金で雇われたゴロツキ集団と云っていいU・B・C・Sの中でも、筋を通じた人だ、そもそも彼が囚人兵であるU・B・C・Sに参加するきっかけは部下の助命だった。

ニコライやウエスカーみたいな人間は好きになれないが、彼のような人間は信頼できる。

生き延びて貰って“ソン”は無いだろう。

幸いゾンビに喰い干切られた脇腹は出血こそ酷いが内蔵まで達してはいない。

傷口を消毒して被覆、出血分さえすればなんとかなるだろう。

包帯はあるし、輸血用血液もA型はしっかり用意した。手当てをすればなんとかなるだろう。

前の車両からカルロスとニコライが来るが、ミハエル大尉と列車の護衛をすと言ったら納得してくれた。

悪いか！？ 俺は死ぬのが怖いんだよ！！

ガソリンスタンド（火災、大爆発）も

変電所（ネメシスの可能性A）も

営業所（ネメシスの可能性B）も

危険すぎるんだよ!!

グレイブティガーも嫌よ!?

一番死ぬのあそこですからネ!?

ジルが落ちたらロープ垂らすぐらいはしますが……

とりあえず、まずは拾っておいたガンパウダーを弄りますよ。

A × B = C

…

…

…

A × B = C

…

…

…

A × B = C

…

…

…

C × C × C = C C C …

はい、皆さんお分かりでしょうが、マグナム弾の作成です。

取りあえず電車の中に戻るとミハエルさん見えません。

二丁のクルツのうち、片方をホルスターに戻し、両手でしっかり持つ。

扉を開けて前方車両に行くところ……

S I G / P R O 向けられました……

ホールドアップ

両手を上げてクルツを離す!!

「人間か!？」

「……おいおい酷いな、人が折角手当てしたのに……」
ゆっくり手を下ろしかけ……

「まだだ、今の状況は？ お前は何者だ？」
制止されました。

トリアゾラム飲ませたのが不味かったかな、ネメシス戦終わるくらいまで寝てて欲しかったのに……

「順番に答えるよ、俺はブラッド、ブラッド・ビッカーズ。
ラクーン市警所属の特殊警察部隊員、ポジションはRSで主に車
リア・セキュリティ
両の運転とスナイパー、救護も兼任してる。」

今はへり降下地点の時計塔に移動するために列車の修理、並びに弾薬の確保の為に他の隊員や俺の仲間が町に出てる。

ちなみにあんたの脇腹に包帯巻いたのも俺、オーケイ？」

一息に早口でまくし立てるとミハエルさん、少し頭を抱えています。

寝起きで頭が回らない＋睡眠薬の副作用＋情報の整理のようだ、しかしその間も頭にポイントし続けるのは流石職業軍人。

一瞬、足元が揺れ、意識が朦朧としていたミハエルの足がもつれる。

太腿に下げたクルツを取り出すと腕を打ち据えハンドガンをもつれるの手から弾き落とす、左手のホルスターに納められたブローニングを抜くとクルツを投げ捨てスライドを引く。

何時までも銃口を突き付けられるのは気分の良いことじゃ無いからね。

取りあえず意趣返しついでに逆にホールドアップ。

目を白黒させるミハエルにハンドガンを拾ってやる。

「一応味方だ、銃口は向けなくてくれ。」軽く文句を言うと、クルツを太腿に戻し。

「一人の方が良いだろう？」

少しの間、列車の周りを片付けて来る。」

と言って列車から降り、マンホール目指して駆け出した。

発進！！ 到達！！

ボールでマンホールをこじ開けると眼前広がるは……

白い肉塊でした、これってグレイブティガーだよね、ヤッていいんだよね。

そこ、“ヤッ”に突っ込まない“ヤッ”に

大きく息を吸って

fireeeeeee!!

(と書いて「もぉお一回!!」と読む)

デザートイーグルが火を噴く!!

真上からぶっ放しで、あつと言う間にグレイブティガー倒すとジルが梯子を上がってきました、ロープ意味無かとね。

路面電車の修理パーツをジルから受け取ると……

オイル良し、ヒューズ良し、電気ケーブル良し、ついでに言つと“仕掛け”も良し。

指差し確認は安全の基本。

カルロスが運転するようで、俺はカロリーメイトもどきを頬張りながらぼんやり眺めています。

あぁと、忘れてた。

「あんまし速度出すなよ。事故車で線路塞がってるかも知んないし。」

「これでよし。
つと

ずゴン……!!

うお、やっぱりきますかネメシス。
ストーカー、カラススプレー持っても意味ない。

「何!？」

ジルが慌て後部車両に走り出しますが。

「ジル、装備は大丈夫か？俺も行く。」マグナム弾を渡しながら
ジルをポイントマンに後部車両へと行くと……

ぐおおお!! S・T・A・R・S・
叫んでます、すごい叫んでます。
ジルと俺のマグナム二丁で討伐します、S・T・A・R・S・舐め
ないで下さい。

でもやっぱりすぐに起き上がります。

かかし、いや、しかし俺も考えがあります。

「ジル、この車両から出る!!」

「ブラッド!？」

「俺に良い作戦がある。」
ジルが納得し前方車両へと行くと、俺は閃光手榴弾を取り出し、奴の足元に放り投げる。

信管は最短、即座に眩い閃光が生まれ、目を覆うメネシスを尻目に前方車両へと繋がる扉を開ける。

踏み板に隠れて本来見えない連結部分をイメージして……！！

一発 二発 三発

連結が切れ、よろよろと離れて行く後部車両。

PSG-1に持ち帰ると……あらかじめ仕掛けておいた爆薬（街にあつた奴）にバーン！！

後部車両……木っ端微塵……

電力供給する後部車両がなくなったせいでゆっくり慣性走行する路面電車、事故車を車止めに、ガン！！

と軽い衝撃で止まりました。

カルロス、戦々恐々としています。

やっぱり事故車の事忘れてましたか……

ミハエルさんに肩を貸しつつ時計塔に移動、本来電車突っ込んでぐしゃぐしゃになった割合立派な門をくぐると、庭を抜け、礼拝堂へ、ベンチにミハエルさんを座らせると時計塔探索開始！！

脱出、絶望！！

さあて、時計塔はジルに任せてと、裏口から病院に行きます。

ハンターはまだ投入されていない事を祈ります。

エレベーターのロックはテープが有りますから。

資料室で402号室の鍵を取ると。

401号室で金庫のナンバーを見れば柵は関係無し。

柵を動かさなくても絵を外せば、いいのですから。

ナンバーをピ…ポ…パ…ピっと

んでワクチンの原液を入手と、これだけでは量が足りないのでから、これを培養しないと行けません。

エレベーターでB3Fへと降りますと…？

ゾンビです。

ゾンビがなだれ込んできました。

くるなあああ！！

クルツを連射するとあっと言う間に全滅しました。

研究室に入ると、培養槽の中に浮かぶハンター がいます。

部屋の隅の培養液を拾うと合成装置にセット、電力供給を切り替え

まして。

ゴポゴポ水のなくなる培養槽。

レバー選択は？・？ A

一発成功すれば供給を培養槽に戻して回れ右、全力で逃げます。

病院から出ると鐘の音が響き渡る。

ジルが時計塔の鐘を鳴らしました。

あの鐘をく鳴らすのはあなたく

と、時計塔に戻ると二階のテラスに上がる、そして扉を開いた時に
見えたのは、

視界一杯のヘリコプター（火達磨）。

ダッシュだあ……………！！！！！！

……………死ぬかと思った。

でもネメシス戦に間に合ったからよしとしようか。ジルが追い詰め
られています。

ブローンでPSG-1を構えるとネメシスの頭に一発！！

こちらを向いてスキが出来ます。

今の内に逃げとくれ、ジル コイツ（ワクチン）は万が一の保険だ。

ゴシゴシ（っー）

「嘘だろ??？」

ネメシスが手に持ったロケットランチャーぶっ放してきました。

身を翻して避けるが爆風は裂けられない。

砕けた時計塔の破片を浴び、全身血まみれになりながらも何とか、
避けしきる。

「ジル!!!」

やっと登場カルロス君、早えとこロケラン壊して下さい。

私もPSG-1で……………無理でした、スコープ割れてますし、銃身
ひしゃげてます。

クルツを取り出し、ストラップで手にがっちり固定、単発にセッ
ト。

大きく息を吸うと…………

最初にイメージするのは内部構造、逆鉤、スライド、給弾の動き…

……

次にイメージするのは弾道、ただ真っ直ぐ、標的に向かって直線を描
く。

次は重力、実際に飛ぶ弾道、放物線との微かなズレを修正する。

次には気温差、湿度、辺りは火の海、この修正は必須だ。

最後はにするのは敵の倒れるイメージ
どこに当たるか、倒れる方向はどうか、問題無い。

すべてをイメージし、ゆっくりとトリガーを引き絞った。

空気を切り裂いて飛んだ弾丸はネメシスの左胸に当たると、強い衝撃でネメシスの体を大きく吹き飛ばした。

スナイプの結果に満足しつつも、薄れかける意識の中、テラスにあがってきた何者かの足音を聞きながら意識を失った。

公園 - RACCON PARK -

結局、俺が目を覚ましたのは半日後だった。

テラスで、ロケランの余波喰らって倒れていた俺を回収したのはミハエルさん。

今は包帯のぐるぐる巻きでミイラ男状態です。

ズシッ……………

地震？ それとも建物が軋んだのか？

何でも、爆風で飛んできた破材が突き刺さっていたそうで、脇腹の鉛筆大の金属片を最大に、4〜5個程刺さったそうです。

よく生きてたな……………

あゝ後、俺の援護射撃が効果あったのか、ジルは感染せずにすみました。

走れない事は無いんですが、少々キツイ、さらに半日。

俺の体力回復を待って時計塔から……………

S・T・A・R・S・!!!!!!

壁、突き破って来ましたあ!!

つうか忘れてたあああ！！

まだ意識朦朧としてたんですか俺！！

ヤバい！？

ジルはトンデモ地雷銃

(マインスロアー(改?))を構え。

カルロスがM4A1に付いたグレネードランチャーに弾を込め。

ミハエルがM629をがっしりと持ち。

俺がデザートイーグルをじっくりと狙いを済ます。

……………あれ??

楽勝じゃん……………

ジルのマインスロアーが、カルロスのグレネード、5.56mmが、ミハエルのマグナムが、俺の50AEがネメシスに殺到する。

ものの数秒でネメシスは制圧された。

ジルやカルロスが先を行く中、こっそり注射器を取り出すとネメシスに開いた風穴に押し当て、ピストンを引く。

NEME 付きとは言えタイラントの血液だ、ブラッドとして使えなくとも、治療や、対抗策を練るのにもサンプルは重要だ。

唯一、ミハエルがいい顔しなかったが、その意味をわかっているの
だろう咎めはしなかった。

抗血液凝固剤と、少々の栄養を入れた病院で拾ってきた輸送アン
プに入れると、嚴重に封をした。

これで、危険は無いだろう。

時計塔を出ると、すでにジル達は移動したらしく、公園の鍵は開い
ていた。

門を入ってすぐにはハンター、それも二体、どちらもちちらには背
中を向け、まだ気付いてはいない。

デザートイーグルを構え、慎重に照準を合わせる。

まるでカメラの倍率を上げたかのように、世界が拡張される。

・01mm単位で、銃身をずらし、整えていく。

目標にどのように突入するか、留まるか貫通するか、撃たれた“モ
ノ”がどうなるか……

こんな至近に居るのに気が付かない緑色の怪物に嘲笑を浮かべなが
ら。

引き金を引き絞る。

飛翔した弾丸はハンター　の肉を引きちぎり、そのまま貫通、二体
目の脳髓に直撃、内部に留まり死に至らしめる。

一体目は倒れこそするが、いまだに動こうともがいている。しかし、背骨を貫いた弾丸は脊椎を破壊し致命的な傷を作っていた。池の中でもがくが、下半身の自由を奪われたハンターからは、傷口から血が滲むのみである。

滅多に使わないナイフを取り出すと止めを差す。

噴水に行くと、排水路はすでに開いていたのでクルツ片手にハシゴを降りる。

天井からボタボタと降ってくるのはスライディングワーム、サブマシンガンの火力に任せて殲滅しながら一気に突破。

墓地に着くと死屍累々。

ジル達が一瞬でやってくれました。

ニコライが飛び出して来たのでとっさの判断で排水路出口に戻ります。

間一髪、墓地は陥没し、ジルやカルロスが穴の中にいますが……

来たか、俺のストッパー

(ゲームオーバー要素)

グレイブティガー“墓掘り人”二回戦目!!!今回は盛大に行きますよお?

廃工場 - s e c r e t l a b o r a t o r y -

ストレスも発散し、気分的も肉体的にグリーンなfine状態。

ジルと一緒に廃工場に行きます。

吊り橋を渡ると三度登場ネメシス君

俺は飛び降り、ジルは入り口を閉じて“振り切ります。”

水質サンプルを入力して……………

∴ (1)

∴ (1)

…………… (2)

…………… (3)

…………… (5)

…………… (8)

…………… (1 3)

わからん！！！

しかも∴の数、フィボナッチ数列かよ！？

だったら次は21個：がならんでんのか！？

自棄だ自棄、デタラメに入力すれば何とかなるだろ！！

.....

.....

.....

だめだ、21個どころか34個になっちまった.....とりあえず上に行こう、上に.....

意気消沈で排水路に出た所で沈んでいたゾンビどもが起き上がって来ました。

.....忘れてたorz

カルロスのM4とクルツで吹っ飛ばしましたが...

テンションさがるなあ.....

廃工場 - last escape -

上に行くと休憩所でコーヒを一服

だつてする事無いんだもん……

ジルが合流、ミサイルとかミサイルとかミサイルについて2〜3話
すと水質サンプルを処理するために降りていった。

次に備えて処理ルームに続く通路で待ち伏せしようと思う……

「ブラッド。」

ジルが追い付いてきた。

手で付いて来るように示す。

しばらく歩くと弾丸が壁を削った。
ニコライだ。

ジルを大型冷蔵庫の陰に押し込む。

「まだこんな所をうろついていたか……」

「御生憎様、おかげで壮健でいられた。所でお仲間さんはどうした
？」

「他の監視員には死んで貰った……」

「自分の報酬を増やすためにか？
そりゃ良いな、あんたがいなければアンブレラの所にデータは届かない。」

「私達は無関係でしょ！？」
ジルが叫ぶが意味はない、なぜなら…

「無駄だ、ジル。アンブレラはS・T・A・R・S。（俺達）の事が大層お嫌いだな。」

「そうだ、君達の死亡確認にも報酬が出る。安い金額だがね」

「あんたの財布の中身になる気はさらさらと無いわね。」
放つとしてもネメシス君がやってくれるのに、ニコライの様子を見ようとジルが影から首を出した時、辺りが真っ白になる。

……閃光手榴弾！！
モロに直視したジルが気を失って倒れるジル、その瞬間影から飛び出したニコライがこちらに迫る！！

胸に鈍い衝撃……
ニコライはナイフを腹に突き立てに来たのだが、クリスも呆れるほどの幸運でマガジンパウチの中身、ブローニングの予備弾倉に阻まれる。

てゆかマガジンパウチやらホルスターやらジャラジャラ付けてて良かった…そのまま右手でニコライの腕を掴み、左ストレート！！

ありゃ？

何でわし、地面にひっくり変えってるの？

なにやら一瞬の交錯で投げられました。

近接弱かったのね……わて(T-T)

ニコライはそのまま走り去って行った。

俺はジルを起こそうとしたがびくともしない、もしかして……

ネメシスと一騎打ちと言う奴ですか………？

持ち物かくにん!!

ひとおっつ!! クルツ二丁!!

ふたあつ!! デザートイーグル!!

みいつ!! ブローニングHP【改】

よおっつ!! P7M13

いつうつ!! 壊れたスナイパーライフル

よしかてる!! よしかてる!! とつにゆう!!

(自己暗示中)

ぶらっど・びっかーず、とっかんします!! (洗脳完了)

システムディスクを差し込むと扉を開く、警報が鳴り響き処理ルムが稼働し始めた事を告げる。

ネメシス君登場！！

と同時に退場！！

デザートイーグル！！

デザートイーグル！！

デザートイーグル！！

クルツ！！

クルツ！！クルツ！！

クルツ！！クルツ！！クルツ！！

廃液はいらね。

カードキーを死体から拾うと急いで部屋を出る、この部屋は危険だ。

部屋から出るとジルが出迎えを受ける。

いよいよミサイルが来る、ジルを引き連れ、ミハイルと合流し管理塔に行く。

ニコライのヘリが離陸し飛び立たんとする。

ミハエルがニコライを説得するが、意味はなく。飛び去っていった。

カルロスがなんらかの無線を聞き留め、連絡手段を求め飛び出して行った。

俺もミハイルも、それぞれ行動を開始した。

side jill

脱出の手段であるヘリもニコライにより奪われた、最後の希望はあの無線だが、それも壊れてしまった。

手分けをして廃工場を搜索する、すると管理塔から、裏手に出られた。

何やら、タイラントが交戦した形跡がある。
ドックタグを見ればどうやら米軍らしいが…

そして据え置かれた大型の機械………どうやらレールガンらしい。

しかしいま必要なのは強力な兵器ではなく、脱出の手段だ。

出口に近づくが、びくともしない。

やむを得ず、いったん管理塔に戻った。

「ジル、さっきの無線と連絡がとれたぜ。」

戻ると、歓喜に染まったカルロスがこちらに叫んできた。

「ブラッドの奴が無線を修理したんだ。」

見ればブラッドの指先は黒く汚れていた。「型はふるいが、S・T・A・R・S・オフィスのと機種は同じだったからな。」

そう囁くブラッド

ミハイル曰わく、ここに直接降りるようだ。

どうやらあの先にヘリが降りれる広い場所があるらしい。

「兎も角、一刻の猶予も無い、急ごう。」

ブラッドがみんなを促し、全員梯子を降りて行った。

再び、レールガンのある部屋へと戻ってきた私達に奇妙な違和感が襲った、何か先ほどこの部屋に入ってきた時と違うのだ。

……そして私は違和感に気付いた

“タイラントの屍や遺体が無い”のだ!!

とっさに上、積み上げられたがらくたの上を見ると、人型とすら言えない肉塊と化したネメシスがそこにはいた。

「上を!!」

とっさに叫ぶとネメシスは腐液を撒き散らしてくる。

私が警告したため何とか全員が避わす。

「ヤロオ!!」

カルロスが叫びM4を撃ち放つが、巨大なネメシスに全くのダメーシを与えられない。

「ばけものめ!!」

マグナムを撃ち放ち。

ブラッドがロケットランチャーを撃つ。

しかし、異常とも言える耐久力でびくともしない。

何か……………もつと強力な兵器は……………

！！

レールガンだ！！

カルロスやブラッド、ミハイルが応戦するなか、先程拾ったマニユアルを見ると、バッテリーユニットを起動させて行く……………

レールガン、“パラケルススの魔剣”充電、開始します。

無機質な合成声で、レールガンが起動したことがわかる。

「S・T・A・R・S・（星）が欲しいんでしょ 星の光をくれてやるわ！！」

私が叫ぶのと、レールガンが発射されるのは同時だった。

レールガンの閃光が走り、圧倒的な威力を持ってネメシスを撃ち碎いた。

あとに残ったのは射線上に挟られた部屋と、僅かな肉片だけだ。

レールガンはオーバーヒートしたのか、停止している。

電力供給が止まった為、電子ロックが停止する。

他の全員が疲れ果てている中、何故かピンピンしているブラッドが

扉を開け、早く来るように急かしている。

狭いエレベーターを抜けるとそこには一機のヘリが止まっていた。

私、ミハイル、カルロス、殿のブラッドが乗り込むとヘリは離陸を開始した。

「急いでくれ、もうあまり、ミサイル到達まで時間がない。」

ブラッドがヘリのパイロットを促す。

そのヘリのパイロットとは……………

「すまなかった、ジル、ブラッド。」

米軍の包囲の所為でこのタイミングしか無くてな。」

「……………時間だ!!」

カルロスが見ていた腕時計から視線を外し、外に目を向ける。

白い雲の尾を曳きながら飛んだミサイルは眩い閃光と共に爆風を引き起こし、空中にあったヘリを大きく揺さぶった。

後に残ったのは大きなキノコ雲だけであった。

……………以上がラクーン・シティで起こった生物災害事件の概要であ

る。

この事件により、ラクーン・シティは地上から消滅し、今は広大な跡地が残るのみである。

しかしアンブレラ社はこの跡地を利用していまだに何らかの実験を続けているようであり、それは決して許されるものではない。

いつかアンブレラ社が糾弾され、真実を白日の元にさらされる事を切に願う。

……………ジル・バレンタイン

f i n ?

特殊アイテム（前書き）

ブラッドが本編中使用する銃
カスタム関連

特殊アイテム

M1935 FN ブローニング HP (Hi-Power)

(3仕様)

初期型のブローニングをベースに、スライドを交換しコンペンセーターを装着、バレル自体も延長した安定性仕様、20連発マガジン。タクティカル・マウントを増設し、フラッシュライトとレーザーポインターを備える。

シルバーに輝くスライドが印象的なカスタムハンドガン。延長したバレルが重厚感溢れる。

グリップにS・T・A・R・Sのエンブレムを模したカメオが埋め込まれている。

(三つの星の内、左上の星が青くなり、RACCON POLICE DEPの文字部分がゴールドメッキ)

ベレッタカスタム・サムライエッジ
ブラッドバー。

(1:ジルに貸与以降、ジルが使用中(3))

連射性を重視し、M9ではなくM96Rを改造して完成したブラッド用サムライエッジ。

サイト（照星 照門）が大型化、白くマークされている。

バランスが単発でも通常の拳銃より素早く撃て、特にフルオートでの集弾性能は秀逸の一言。

（三つの星の内、右上の星が青くなり、RACCON POLICE DEPの文字部分がシルバーメッキ）

対ゾンビ、ゾンビ犬相手程度なら優秀な能力を持つ。（ゾンビ、ゾンビ犬に対してのみ、1/18の確率でクリティカルが発生する）

DE50AE2 デザートイーグル

6inchモデル50AE仕様 サイトスコープ付き

（三つの星の内、下の星が青くなり、RACCON POLICE DEPの文字部分が紅ラメメッキ）

コードベロニカ - Really? -

ジル、カルロス、ミハイルとラクーン・シティを脱出した御一行。ルートの偽装を重ねながらヨーロッパの隠れ家に着くと慌てた様子のクリスがいます。

どうやら妹がパリ・アンブレラ支社に捕まったとのこと。

そしてクリスにヘリの操縦を頼まりました。

…

…

…

…

ベロニカ突入!?

断る訳にも行かず、やむを得ずヘリパイロットとしてロック・フォート島に向かう羽目に……

ふん!! いいくんだもん!!

クリスがウェスカーに殺されるより俺が死にかける方がまだもん!!

(死にかけるだけで死ぬつもりはない)

などと子供じみた駄々をこねた所で意味は無く……

俺操縦のへりの元、俺達二人は一路ロック・フォート島へと向かった………

侵入

side Chris

クレアのメールから、ロックフォート島は壊滅状態であり基地機能は殆ど失わらしい。

ならば堂々とヘリで乗り付けても問題は無いだろう。

ヘリを地面すれすれに飛行させ、飛び降りる。

クレアを助け出した後は、安全な所に待避させたヘリを無線連絡で呼び寄せて脱出、ブラッドが不安がっていたが危険はないはずだ。

低空で基地に侵入したブラッドの操縦するヘリが崖の上、ある程度開けた場所へと侵入する。

地面が一番近くなった瞬間、ヘリから飛び出す。

全身の関節をフルに使い、衝撃を吸収する。

俺が地面に着地したのを見計らい、浮上するヘリ。

順当に進むかと思つたヘリだったが、どこからともなくロケットが飛来、ギリギリの所で機首を持ち上げ、避わすヘリだったが。続いて飛来した二発目がローターテールへと命中し、ふらふらと二回、三回と回転し、崖の下へと墜落した。

「ブラッド!!」

俺は思わず叫んだが、一拍置いて上がった爆炎がその末路を伝える

…

「クソ…!!」

苛立ちに横手の壁を蹴飛ばすと、妹と脱出の手段を求めて歩き出した。

生存報告 - 不死身のピッカーズ -

side Brad

「しつ……………死ぬかと思ったあゝ」
今、俺がいるのはクリスがロック・クライミングで入ってきた岩棚の上だ。

へりが崖に叩きつけられる寸前、へりから飛び出し、斜面を滑り降りながら岩棚に転げ着いた。

少々、打ち身はあるが、重傷ではない。
しかし、装備の大半がへりと共に失ってしまった。

手持ちは45口径のハンドガンが一丁とS&W M629。
他のクルツやハンドガンはへりの中だ。

ブローニングが…………orz

まあ、戦う予定が無かったからロケットランチャーが無かったのが幸運なのか、不幸なのか……………は
び、微妙だ、

戦うんならロケットランチャー欲しいが、へりと一緒に無くならなかった分、マシか??

45口径を構えると、ゆっくりと歩き出した。

ロドリコ

岩棚の洞窟から島の中に入ると、重傷を負ったロドリコが居た。

「誰だ!?!」

ロドリコはそう叫ぶとデザートイーグルを構えた。

「安心しろ、敵対の意思は無い。

ただ…友人の妹を探しているだけだ。」

「友人…?」

「ああ、名前はクレア・レッドフィールドという。」

「ああ、あの娘か…、あの娘は俺が逃がした…。輸送機が飛んで行ったから、多分脱出した筈だ…」

「そうか…一足遅かったな、立てるか?」

「いや、いい…。俺は…この島の民の最後の一人だ…、ここに骨を埋めるつもりだ。」

「…そうか…。」

こいつ（麻酔薬）を…、キツかったら使ってくれ。」

医療キットの中、三本の注射器の内一つを取り出すとロドリコに手渡した。

注射器を受け取ると、緩慢な動作で腕に注射した。

「……そうだ、こいつ……。こいつをあの娘に返しておいてくれないか？」
ゆっくりと、しかしはっきりとした口調で取り出したのはジッポライター。

「わかった、約束しよう。必ずクレアに渡す。」

ジッポを、持つ手と共に握り返すと、背後に居た砂虫に45口径を撃ち込んだ。

Mk-23 SOCOM

LAMとサプレッサー用のネジ山を備え

(レーザー・エイミング・モジュール)

高いマン・ストップピングパワーを持つ45口径弾を12発も放て、30000発撃っても破損しない耐候性を備えたハンドガンだ。

バリーに頼んだらPhase1を持ってきた、

何でさ。

あゝあと、SOCOMって言っても通じなかった。

何でだろ。

45口径と50口径で砂虫を屠ると、地上へと向かうエレベーターをくぐった。

ロックフォート島 VS ウェスカー

その後ハンターや誘導機からちよろちよると逃げ回りつつ、少しずつ、確実に歩を進めていく。

鳴り響く警報!! 回れ右!! 扉潜る!!

orz 疲れた……

「……………ここいたか、クリス!!」
後ろから声がする……………。

この声は……………
わかります、ええ、誰の声かはつきりわかります。

振り向こうとしますが、事実を認めたくない首が古びた機械の如く、ギシギシと軋みを立てながらゆっくりと向こうを見ます。

「……………ブラッド!?!」

ウェスカー来たあ(。(。)(Y—————
!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

俺(。(。(。)(ヲワタ

まあ、原作と違って筋肉付いてる分ガタイ良いから背格好もにてるから間違うのも分かるけどさ……………。

着てる S・T・A・R・S・S 制服みて気付こうよね。

俺のベストの色、ブルーブラック青ですよ?!

それで間違えるって：ウイルス注入して耄碌した？

とりあえず逃げ切るのは無理、人外ウエスカーには主人公クリスを当てるしか無い。

「ウエスカー隊長”ご無事でしたか？”

わざと、嫌みを込めたセリフを吐く。

「気付いていたのか」

「まあ、ウイルスの特殊性を考えれば、不死の研究は何らおかしく無いですから、洋館の時に言っていた、タイラントを持ち出そうなら、死を偽装する必要もありましたからね。

……大方、自らウイルスを注入してタイラントもどきになってるんじゃないか？

ついでに言えばアンブレラがそんなあんたを生かしくとは思えない、ならばあんたの立場はアンブレラじゃなく、タイラントを売り渡そうとした商売敵、それなのにここにあんたがいるのはここ（アンブレラの施設）に有る何かを必要としているから……違いますか？」考えるゝ 考えるゝ

何で神様は知恵と勇気を人類に与えたのかゝ！！

何か、何かウエスカー相手に生き残れる案は無いのかゝ！！

「やはり……貴様のような賢しい人間を敵に回すのは危険だな……」
やヴあいやヴあい！！

死刑宣告きましたあ！！！！

一応デザートイーグル抜きましたが……、ウエスカー早すぎですよ！！

ひゅん……！！ 効果音付きそんな移動つてなによ……！！ ひゅん……！！
！ って……！！

速すぎですよ……！！

まだ瞬間移動はしませんが……！！

殴らないでえ（——；）

ちよ、首首首首首首首

苦しい苦しい苦しい苦しい苦しい。

死ぬう……………

クリス VS ウェスカー

ギリギリの所で運良くクリスが来てくれました。

何か、ピースメイカーな戸谷ヴォイスに

ボタンを連打すればライフが回復する

と言われる幻視をしまして

して、爪が割れるくらい連打しまして助かりました。

ライフが無くなればゲームオーバーでコンティニューは無い

と言われましたから焦りましたよ。

なに……？（いいセンスだ？）ドウモありがとよ。

しかし、クリスをボコっていたウェスカーも、その後に来た無線でこちらには興味を無くしたウェスカーは去って行った。

クリスに湿布を張りながらつくづく思うよ、やっぱり。運って重要だね。

t o 南極基地

まあ、あの後どおりのこゝのでV-TOL機を見つけた訳ですが、クリスの離陸を見送ります。

ん……？何で南極行かないか？

それは簡単。

帰りはクリア入るんですよ？

とクリスに優しく話しかけたら、何故か引きつった顔で納得してくれました。

一体どこに引きつる要素があつたんだろうか……

ともかく、向こうにアシがあるかわからないのに

定員オーバー確定な状況は非常に勘弁

クリア達が脱出に使った、おなじタイプの輸送機へと、道無き道を進むと。

離陸、とりあえず形だけは様子を見に南極へと向かいます。

南極基地

ああ、レッドフィールド兄妹が行かなかっただけで、一応南極基地にも空港会ったのね……

なんか、ビービー警報なってますが……

ビービー、ビービー、ビービー、ビービーヒュン……
ビービー、ビービー

ひゅん？

なんか今違う音が混ざったみたいな気が……

「ブラッド!？」

慌てた様子のクリスが走って来ました。

「なにやらクレアが攫われたらしい。」

…

……

……

ウエスカーと対決ですかあゝ!!

かあゝ!!

……かあゝ!!

港でウエスカーと対面……隅には潜水艦も見えます…

クリスが鉄パイプで殴りかかります。

しかし、腕で受け止めるウエスカー……

クリスの腹に一撃を加えます。

やっぱり化け物です、ウエスカー

腰を落とし、右手にナイフを逆手に持つと……

「突っ込んで来たウエスカーに“零距离”ショットガン!!」

卑怯って言うなよ!?

そうでもしなきゃ死ぬ!!

じゃないと死ぬLv. 差何だぞ!?

何かショットガン(散弾)避けたみたいなんでづが……

嘘だろ……?

あ、意識取り戻したクリスが後ろから殴りかかります。

しかし、びくともしません、さすが怪物ウエスカー。

ただ、一瞬注意が向いたような首根っこ捕まれてた俺はでポケットから何かを取り出すと眼に捻込んでやりました。

嫌な感触と共にウエスカーが呻きます。

手の力が緩み、右手に握ったナイフを筋に突き立て拘束を振り解く。続いて16徳ツールからナイフを立てるとさらにもう一本、ウエスカーの腕に突き刺す。

手の内にある、ウエスカーの目に突き立てた“それ”

ウエスカーの血に血みどろになってはいるが、見間違える筈のない。本体中央でヒビが走り弾丸が食い込んだそれは……

「何回命救われてるんだ…？俺…」

ブローニング（初代）のスライドだった。

さらに追撃、ショットガン（スラッグ）を腹に押し当て一撃。

デザートイーグルとSOCOMを連続で叩き込む、叩き込む！！

バックステップで間合いを離すとショットガン乱射（散弾）（スラ

ッグ）（散弾）（スラッグ）（散弾）

ショットガンを投げつけると閃光手榴弾。クリスを担ぐと回れ！！

み…ぎい…！？

殴り飛ばされました。

幾ら何でも怪物過ぎます！！

ウエスカー！！

ここまでやってまだピンピンしてますかあ！？

そろそろ武器はイングラムしかありませんよあ！？

クリスにイングラム投げ渡すと、デザートイーグルとSOCOMでぶちかます。

ここでやっと爆発に両者が二分される。

「逃げるぞ！！クリス」

クリスに叫ぶと、クレアも向かった。

俺の乗ってきた輸送機に向かって駆けだした。

幕間（前書き）

今回は短いです。

幕間

空港から離陸すると間一髪、南極基地は炎と消えた。

貨物室では、レッドフィールド兄妹が話し合いをしている。

……ハッチ開けちまうかな……

ブラックな思考が頭を過ぎった……

飛行機を自沈させると足を陸路に変え、無事、ジル達と合流を遂げる。

クレアの護衛にミハエル大尉殿を付けると、バリーやエンリコの家族のように疎開させる。

彼ならば、何か有っても命に代えでもってクレアを守り抜くだろう。

俺は銃器の整備をしながらつくづく思った……

ああ、生きているって……素晴らしい……

結末 一応完結（前書き）

すみません、がつつり放置させて頂きました、一応これで完結です。

結末 一応完結

いやあ、皆さんお久しぶりです。

(小説内時間、現実時間含めて)

いよいよクリスマスも因縁のウエスカーとの対決ですよ。

俺……？

無理です。 5 作中で何歳だと思いですか？

ジジイです、ジジイ。

南極基地の一件の後

B S A A のオリジナルファイフティーンとして参加、今やご意見番とスポンサーです。

資金はバイオハザード脱出時に有ること無いこと、あと映画版の出来事を表沙汰に出来ない時から“フィクション”扱いにして執筆。

そうした所ミリオン・セラーを樹立。

今や、表世界では知らない人のいない、世界中で最も売れたホラー小説家としてギネス記録を保持していました。

………つい先日どこぞの元新聞記者の女性に抜かれましたが。

何せフィクション扱いにしていますから政府も下手にもみ消せない
うえ。

政府が禁書指定で回収すると言う話しが

(どこからかw) 出たものですから真実味が増してこそって購入され、自費出版のサイン入り初版本は今や本に付く単位じゃない金額で取引されています。

そのお金を元手にB S A Aに出資、B S A Aは装備、人員ともに高いレベルにあります。

とまあ、成功しちゃった訳で、後はご隠居としてゆっくりやらせて頂きますよ、クリス君。

という訳でウエスカーを頼む、必ず留め差して来れ、おおよそ俺の老後の為に。

R P Gでもガトリングでも衛星砲何でも、欲しい装備モンをくれてやるから。

という事で、スイスに構えた邸宅にB S A Aから派遣された護衛部隊と共に余生を過ごさせてもらいます。

では、クリス君に補給の手配が有るのでこれにて失礼させていただきます。

結末 一応完結（後書き）

隠居と言いつつ、資金力を傘に未だに干渉するブラッド爺さんw

偽名でスイスのどこかに隠居決め込みのんびり余生を過ごしたかも。

if シナリオ バイオハザード2

Orz……………ジルに置いてかれちゃった。

路面電車、無え……

憂鬱気分のままにR・P・D・（ラクーン市警）へと戻る。

邪魔なゾンビ数体を風穴祭りにしたが、なに、気にする事は無い。

S・T・A・R・S・のオフィスに戻ると扉の正面に置かれた机：
：クリスの椅子に腰掛けるとサイドパックから黄色いパッケージの、
クッキーみたいなカロリーバーと水で簡素な食事を取る。

明日には“彼ら”が来るのは分かり切った事だ。

時間も有るし念の為にオフィスの鍵を閉めて仮眠でも取って置こう。

……………やべえ

寝れない。

動揺してるつもりは無いのだがやっぱり怖いのか、眠れない。

隙を潰すにも、インターネット等の情報網は遮断、TVやラジオは機能していない。

動物園のクマみたいにうろついているとレベッカの机の後ろにあるダンボールが目についた。

今まで手掛けて来た事件のファイルだ。

一枚一枚、丁寧に眺めて行く。

ケネス……フォレスト……リチャード……エド……

今はもう逝ってしまった連中の名前だ……

ふと、隊長のデスクの後ろにS・T・A・R・S・設立当時の写真がある事を思い出した。

（この部屋は洋館事件後にS・T・A・R・S・に与えられた部屋なのだ。

が、表向きにはS・T・A・R・S・とは反対の立場を取っていた俺の机が無い

（東オフィスに立派なの貰った）

は良いとして。

何故か裏切り者なのとはかく未帰還のウェスカーの机があるのは何故だろうか。）

ピンで止められたそれを外すと、曲がらないように丁寧にファイルに閉じ、ポーチにしまう。

……さて、そろそろ頃合いだ。

“出迎え”に行きますか。

S・T・A・R・S・オフィス

生存者の、そして脱出の手がかりを求めて其処へ立ち入ったのは半ば必然と言えるだろう。

ゆっくりと、室内を窺いながら扉をあけると真横から銃口を突き付けられた。

「……………動くな」

そう、言いながら拳銃を構えて居るのはGパンにYシャツその上にパウチやホルスターを提げるベルトと言う軽装の男だ。

自分は人間だ……………

そう、弁解しようとした所で既に引き金が引かれていた。

思わず目を瞑るが、カチツ……………と言うハンマーの落ちる音がしただけだ。

思わずその男に向き直ると目が笑っていることに気が付いた。

「冗談さ……………」

しかし、まだこの街に生きている人間がいるとは思わなかったな。」

そういうと、外してあったマガジンを入れるとスライドを引く。

これで先程とは違い拳銃が発射可能となった。

装弾数を一発増やす為だろうか、マガジンを外すと。やはりバラの弾丸をマガジンに込める。

「今日着任予定だったレオン・S・ケネディです、アナタは……………」

近くにあったデスクに座るとマシンガンやショットガンを並べて、ベルトに提げて行く。

「多分、名乗るまでも無くあなたは俺の名前を知っているはずだ。自分が此処に志願した理由は6月にあったあの事件がきっかけだ。そして此処はS・T・A・R・S・のオフィス……」

なら、この目の前に居る男性は……！！

「クリス・レッドフィールドか？」

男性がデスクからずっこけた。

一気に空気がシリアスからギャグに変わった気がする。

「違う！！俺はブラッド・ヴィッカーズだ！！」

クールに決めていたイメージがガラガラと崩れ、親しみやすいアンちゃん。

と言った感じに成る。

「それで、この街は一体どうなっているんだ。」

「さて……ね、気が付いたら街中化け物だらけ、さ。」
隊長用のデスクを漁るとサングラスを取り出してかける。
なんと言うか、ノリノリだ……

「ラクーン森林地帯にあった洋館で研究していたクレイウイルス、
そんな中でも完成度が高いT ウィルスと呼ばれる物だ。」

それに感染すると知能の極端な低下、新陳代謝活発化によって成長と細胞壊死のサイクルが早くなってるから、外見はぱつと見腐乱死体みたいになる。

動きは鈍いが、並みの人間より遥かに頑丈だ、倒すには普通の人間と同じ、生命機能を失う程の出血させる、脳の機能の破壊。

要は弾丸ぶち込めば良い。
感染すれば治療方法は……今んとこ無い。

ゾンビになったら人間には戻れないよ。

空気感染は……俺達には殆ど無い。

高濃度のウィルスが充満してたりしない限り無事。

……ここら辺が俺の察してる所だな……」

洋館以来、伊達に蝙蝠してないよ。

肩を竦めるように手を上げるとデスクから立ち上がった。

「それで……？ あんたはどうするんだ？

俺はこの街と心中するのは真っ平御免だ。脱出するつもりなら付いて来るといい。」

「脱出……？」

この状況でどうやって逃げるのだろうか……

「地下の下水道を通して、脱出しようとした奴が居るらしい。

開けた空間で四方八方から押し寄せるゾンビをなぎ倒しながらよりは多少視界が悪くても限定して戦える地下の方が良いからな。」

そう言いながらオフィスから出ようとした所で足を止める。

「そっこだ……

こいつを持って行け。」

そう言って投げてきたのはインカムマイクだ。

「チャンネルは弄るなよ、署内のハンズフリーモードになってる。

バッテリーは十分に溜めて有るからちよっとやそっとじゃ切れない

ハズだ……

それと……署長には気を付けるよ。」

そう言って今度こそオフィスを後にした。

シェリー パーキン

さて……

ここからどーしょ……

一人で地下駐車場に行った所で、なあ……？

かといって署長Wと厄介事&Gとの遭遇は嫌だ。

とりあえず、自分のオフィスにある荷物でも拾えないかなー

っと軽いノリでリッカーやゾンビをクルツで蜂の巣にしていく。

その時とてつもない騒音が響く。

二階……か……？

ってー！！ 今の音タイラントのへり投下じゃねえの！？

まずい、まずいって。

ネメシスみたいにS・T・A・R・S・抹殺がプログラムされてるか知らんが、Gウィルス回収を命じられてるあれと出会うのは相当まずい。

とりあえず、逃げ道が無くならない程度に逃げ回るか……

「助けて」

そんな声が聞こえたのは偶然だった。

自分のデスクからペットボトルのドリンクとスナック菓子を回収した後。

美術館時代は入場口だった外来受付を通って会議室前を抜ける。

赤い宝石は回収しない、下手にレオンやクレアに会い損ねて宝石が手に入らず詰み。

というオチは勘弁だったからだ。

そして石像の置かれた廊下を通り過ぎ……ようとした所で、壊れたドアの隙間から少女が生えてきた。

「何やってんだ……？」ぽつりと、呟いた言葉に少女は顔を真っ赤にしていた。

IF……………IF？

少女……………まあ、名乗って無いがシエリー・バーキンであることは確定だしシエリーで。

普通に話し掛けたのでこちらがゾンビとかじゃない事がわかったのか、手を差し出して引き起こし……………

痛え……………！！

ぶ、ブーツが！！ 腹があ！！

レオンに雇ごと蹴り飛ばされました。

なにそれこわい！！

しかもシエリー、びっくりしたのか走ってっちゃったじゃないの！！

つつかマジ腹痛え……………

吐きそう、つーか逝く。

無事再開したクレアと共に、怪物から逃げ回る少女を追っていた。

しかし、少女は子供がようやく通れそうなドアの穴を潜っていつてしまった、……………見失う訳にはいかない。

板と釘で打ち付けられた扉に蹴りを加える。

もともと扉は腐っていたのか、思っていたよりも簡単に碎け、勢い余ってそのまま倒れそうになる。

そして肉つばい感触。

「ぐは……………!!」

聞き覚えのある声だ、これは……

「ブラッド!? すまん!!」

先ほどS・T・A・R・S・オフィスで遭遇した男だった。

悶絶っぷりを見る限り、彼を思いっきり蹴り飛ばしてしまったようだ。

「レオン、彼は……………?」

後ろにいたクレアが不安げな口調で俺に問う。

「さっき言っていた生存者だ、S・T・A・R・Sのメンバーでブラッド・ヴッカーズと言うらしい。」

「S・T・A・R・S・!? ブラッド、私はクレア・レッドフィールド、兄のクリスを探しているの。
その……………」

「あいつなら…………アンブレラを追ってヨーロッパに向かった、俺と同僚もう一人はここラークーンの調査に残ってたんだが…………
それよりさっきの子は良いのか?」

「そつだ、早くしないと!!」
思い出したように叫ぶレオン

「俺は少し休んでから追い掛ける。

コイツを持っていけ。」

そつ言うとブラッドはショットガンとマグナムを一丁づつ差し出した。

女でマグナムを扱うのは大変だろう、俺がマグナム、クレアがショットガンを持ち、少女が走り去った方向へ掛けだした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0546k/>

BIO HAZARD side &B>

2011年7月13日21時11分発行